



国立大学法人

総合研究大学院大学

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

2015

▶ 2016

文化科学研究科

地域文化学専攻
 比較文化学専攻
 国際日本研究専攻
 日本歴史研究専攻
 メディア社会文化専攻
 日本文学研究専攻

物理科学研究科

構造分子科学専攻
 機能分子科学専攻
 天文科学専攻
 核融合科学専攻
 宇宙科学専攻

高エネルギー 加速器科学研究科

加速器科学専攻
 物質構造科学専攻
 素粒子原子核専攻

複合科学研究科

統計科学専攻
 極域科学専攻
 情報学専攻

生命科学研究科

遺伝学専攻
 基礎生物学専攻
 生理科学専攻

先導科学研究科

生命共生体進化学専攻

<http://www.soken.ac.jp/>

Contents

目次

学長あいさつ	3
総合研究大学院大学の特徴	4
創設の趣旨・目的	5
大学共同利用機関とは	5
研究現場での高度専門教育と 広い視野を養う総合教育	5
総合研究大学院大学に参加する 大学共同利用機関	6
沿 革	8
教育研究組織	9
組 織	10

●文化科学研究科 12

文化科学研究科とは	12
地域文化学専攻	12
比較文化学専攻	13
国際日本研究専攻	13
日本歴史研究専攻	14
メディア社会文化専攻	14
日本文学研究専攻	15

●物理科学研究科 16

物理科学研究科とは	16
構造分子科学専攻	16
機能分子科学専攻	17
天文科学専攻	17

核融合科学専攻	18
宇宙科学専攻	18

●高エネルギー加速器科学研究科 19

高エネルギー加速器科学研究科とは	19
加速器科学専攻	19
物質構造科学専攻	20
素粒子原子核専攻	20

●複合科学研究科 21

複合科学研究科とは	21
統計科学専攻	21
極域科学専攻	22
情報学専攻	22

●生命科学研究科 23

生命科学研究科とは	23
遺伝学専攻	23
基礎生物学専攻	24
生理科学専攻	24

●先導科学研究科 25

先導科学研究科とは	25
生命共生体進化学専攻	25

附属図書館	26
情報基盤センター	27
広報社会連携室	28
学融合推進センター	29
学融合教育事業	30
学融合研究事業	34
基盤整備事業	37
社会へ向けた取組	38
教職員数	39
在学生数	39
入学者状況	40
博士の学位授与状況	41
修了の要件	41
修了生進路状況	42
国際交流	43
大学間交流協定	44
神奈川県内の大学等との交流協定	45
平成 27 年度収入・支出予算	45
葉山キャンパス施設配置図	45
葉山キャンパスアクセスマップ	46



学長あいさつ



総合研究大学院大学（以下、総研大）は、1988年にわが国で最初に設立された自らは学部を持たない大学院だけの大学（独立大学院大学）であり、人文・理工にわたる学術分野につき総合的な博士課程教育を、大学共同利用機関等を基盤機関として、それらの優れた研究・学習環境を最大限に生かして行うことにより、高い専門性と広い視野を持った一流の研究者を養成するという世界にも類例のないユニークな大学です。

総研大への入学者はすべて他の国公立大学（2014年度入学者は15外国大学を含む64大学）からの出身者です。わが国の高等教育の最大の欠点の一つは流動性の低さとそれによる単線性や縦割りにありますが、総研大に入学する学生は、その弊害からまず自ら脱しています。それゆえに総研大の学生達は、多くのバリアを越えて飛び出すことができたという高いポテンシャルを、そして多くの場合には分野や学域を越えて飛び込むという気概と挑戦力を有しています。この点が、総研大の第一の特性であり、それが大学にも、そして一人一人の学生にも大きなメリットを与えています。というのは、新しい出会いや、新しい学問風土との接触こそが、新しい学問を形成する上で大きな力を与えるものだからです。

総研大の第2の特性は、世界最先端の研究設備・施設・資料・データベースが配備され、トップクラスの研究者マンパワーが国内外の研究者と不断に共同研究を展開している（計19の）大学共同利用機関等の研究現場という非常に恵まれた環境の下で大学院教育が行われるという点にあります。それらの基盤機関においては、専門性の高い国際的な研究活動が実施されていると共に、全国の大学・研究機関や諸外国の研究者との分野を越えた共同研究が行われています。それゆえに、「深い専門性」と「国際的な通用性」と「異分野連繋性」を兼ねそなえた研究者の養成を目指すことができるのです。

総研大の第3の特性は、高度の専門性の獲得にとどまらず、「総合性」の修得が体系的・組織的に目指されていることです。総研大の基盤機関・専攻の全体において、文化、歴史、情報、生命、人体、エネルギー、物質、宇宙など実に多様な分野の研究が行われています。この学術的な多様性を活用して、自らの専門的知識を他の知識と結合しながら知識全体の中に位置づけるという「広い視野」の獲得を総合性修得の第1の内容とすることができます。新しい学問は、多くは異なる分野をまたぐ形で現れ、その発展には異分野からの研究者の参入を必要としています。このような新しい分野における教育は、一専攻や一研究科の枠にはおさまらず、複数の専攻・研究科をまたぐ形で行われる必要性が生じています。総研大では、その必要性に対応するために“合宿型全学総合教育プログラム”や“研究科横断型専攻間融合プログラム”を推進しています。総研大

では、専攻や研究科を越えた教育と異分野連繋的な共同研究現場における学習・研究によって、「分野を越えた学際性」の獲得を目指すことができる点が、総合性修得の第2の内容です。科学が生み出した多くのものが社会において物質化されて人々の生活に大きな影響を与えている今日では、科学者には研究成果やその使われ方がもたらす結果に対しても説明責任が求められています。即ち、現代の科学者には人類や社会を視野に入れた人間の総合性の修得が求められているのです。総研大教育における総合性修得の第3の内容は、「社会と連携する科学」という視点の獲得を目指していることです。

総研大の目標は、したがって、①深い専門性と広い視野を併せ持ち、異分野連繋的・社会連携的な視点を持つ国際的 researcher 人材を育成すること、②基盤機関と葉山の連係と、国内外研究者との共同利用研究によって、学際的で先導的（即ち新分野開拓・敷衍的）な研究を大学院生と共に展開すること、そして③社会と連携する科学を創造・教育するアジア大学院教育拠点としての地位を確立することです。

総研大の学生のみなさんには、こうした総研大の特性や目標をよく理解した上で、与えられたメリットを活用しつつ、大きな課題に挑戦されることを願っています。日々研鑽の忙しい大学院学生生活ですが、分野の異なる人々や大学や国を異にする人々との交流にも努めて下さい。それらによって得られた人と人とのつながりが、将来の研究人生に大きな財産をもたらすことになるからです。また、日本人学生は外国語の、外国人学生は日本語の修得にも心掛けて下さい。異なる専門分野間と同様に、異なる文化間のコミュニケーションに堪能なことは、国際的通用性を持った博士号取得者として、その能力を発揮する上での必須条件の一つとなるからです。総研大は教育現場においてもバイリンガル性の付与に力を尽くしたいと考えています。

総研大の全職員は、学生と共に、総研大の特性を更に発展させ、力を合わせて本学の目標の実現に向けての努力をして参りますので、関係各位には総研大の一層の発展のためにご理解とご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

平成27年4月1日

総合研究大学院大学長

岡田 泰伸

おかだ やすのぶ 医学博士。京都大学医学部卒。同大学医学部助手、講師を経て、平成4年に岡崎国立共同研究機構生理学研究所細胞器研究系教授に就任。平成16年に自然科学研究機構生理学研究所教授、副所長を経て、平成19年から所長・副機構長、平成22年から同機構の理事を歴任。

専門は分子細胞生理学。特に動物細胞の容積調節機構、アポトーシス、ネクローシスや虚血性細胞死の誘導メカニズム、アニオンチャネルのセルセンサー・シグナリング機能における分子メカニズム研究の第一人者。生物学・生化学分野論文におけるISI高頻度被引用者。平成18年より6年間日本生理学会会長、5年間アジア・オセアニア生理学会（FAOPS）会長。平成12、23年度に日本生理学会入澤賞共同受賞。

総合研究大学院大学の特徴

特色ある博士課程教育

- 5年一貫制博士課程制度と博士後期課程制度の併設
- 基盤機関の研究現場を活用した教育プログラム
- 個の能力に即したマンツーマンの教育プログラム
- 社会人学生・留学生受入れプログラム

高い専門性の育成

- 各専攻分野の最先端研究者による研究指導
- 多様な専門教育プログラム
- 長倉研究奨励賞・総研大科学者賞・未来科学者賞
- 基盤機関が有する世界最高水準の資料・施設・設備の活用

広い視野の養成

- 合宿によって行う全学総合教養教育プログラム（フレッシュマン・コース）
- 専攻・研究科間の共同教育研究事業
- 遠隔授業システムを活用した専攻横断的教育の提供

国際的通用性の確保

- 最先端研究技術・研究者の交流拠点における教育
- プレゼンテーション能力養成プログラム
- 海外学生派遣事業
- 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの活用

分野横断的・先導的学問分野の創出

- 各種新分野に対する研究科・専攻を横断する特別教育プログラムの実施
- 学融合推進センターによる異分野連繋的・社会連携的教育・研究事業の推進
- 「科学と社会」プログラムの全学的な展開
- 修了生を中心とした学術交流ネットワーク

創設の趣旨・目的

近年、従来の学問分野の枠を超えた独創的、国際的な学術研究の推進や、科学の新しい流れを創造する先導的学問分野の開拓の重要性が強く要請されております。

本学は、このような要請に対応する研究者を養成するため、学問諸分野で先端的な研究を行い、国内外の研究者の共同研究の推進に中心的な役割を果たしている大学共同利用機関の最先端に行く高度で優れた研究環境を活用した、我が国最初の独立大学院大学として創設されました。

本学は、新しい問題を発掘して課題を解決できる、幅広い視野を持った国際的で独創性豊かな研究者を養成します。また、従来の学問分野の枠を超えた異分野連繫的、国際的な学術研究の推進並びに先導的学問分野を開拓します。



大学共同利用機関とは

大学共同利用機関とは、国内外の大学研究者が共同で利用でき、各種の高度で大型の研究施設・実験設備又は貴重な学術資料等を保有する、日本が世界に誇れるトップレベルの研究機関であり、全国に19機関が設置されています。

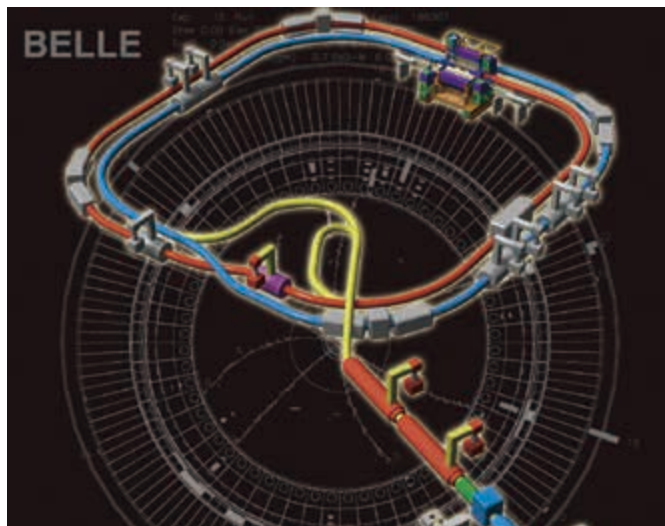
例えばTVのニュースや新聞で、ハワイで活躍中の世界一の大型望遠鏡「すばる」や南極に向かう観測船「しらせ」などのことを耳にしたことがありませんか。「すばる」は総研大を構成している国立天文台が建設したものですし、「南極観測」は同じく国立極地研究所が行っています。

研究活動の多くは非常に基礎的であるとともに大規模な施設等を要し、莫大な投資を必要とします。そのため、予算や研究効率等の面から大規模な研究活動に必要な人材や研究資金等を重点的に投入し、独創的で最先端の研究を行っています。



研究現場での高度専門教育と広い視野を養う総合教育

総研大の博士課程は、日本が世界に誇るトップレベルの研究機関(大学共同利用機関)が保有する大型または特殊な実験・観測施設あるいは学術的に価値のある資料やデータ等を授業に直接活用するとともに、国際的な研究拠点として第一線で活躍する国内外からの多数の研究者集団と日常的に接触できる理想的な教育研究環境にあります。また、教員スタッフは、学生1人に対して教員2~3人を擁しており、総研大は高度の専門教育と広い視野を養う総合教育を実施します。



総合研究大学院大学に参加する大学共同利用機関

①国立大学法人 総合研究大学院大学

本部(葉山キャンパス)
学融合推進センター
情報基盤センター
附属図書館
生命共生体進化学専攻(先端科学研究科)
〒240-0193
神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)
電話 046(858)1500(代表)
電話 046(858)1595(専攻担当係)
<http://www.soken.ac.jp>

②大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館
地域文化学専攻・比較文化学専攻
(文化科学研究科)
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06(6876)2151(代表)
電話 06(6878)8236(専攻担当係)
<http://www.minpaku.ac.jp>

③大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国際日本文化研究センター
国際日本研究専攻(文化科学研究科)
〒610-1192
京都府京都市西京区御陵大枝山町 3-2
電話 075(335)2222(代表)
電話 075(335)2052(専攻担当係)
<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>

④大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館
日本歴史研究専攻(文化科学研究科)
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117
電話 043(486)0123(代表)
電話 043(486)6473(専攻担当係)
<http://www.rekihaku.ac.jp>

⑤放送大学

教育支援センター
メディア社会文化専攻(文化科学研究科)
〒261-8586 千葉県千葉市美浜区若葉 2-11
電話 043(276)5111(代表)
電話 043(298)3452(専攻担当)
<http://www.ouj.ac.jp/>

⑥大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
日本文学研究専攻(文化科学研究科)
〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3
電話 050(5533)2900(代表)
電話 050(5533)2915・2916(専攻担当係)
<http://www.nijl.ac.jp>

⑦大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

分子科学研究所
構造分子科学専攻・機能分子科学専攻
(物理科学研究科)
<http://www.ims.ac.jp/indexj.html>

⑧大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

基礎生物学研究所
基礎生物学専攻(生命科学研究所)
<http://www.nibb.ac.jp>

⑨大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

生理学研究所
生理科学専攻(生命科学研究所)
<http://www.nips.ac.jp>
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38
電話 0564(55)7000(代表)
電話 0564(55)7139(専攻担当係)

⑩大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

国立天文台
天文科学専攻(物理科学研究科)
〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
電話 0422(34)3600(代表)
電話 0422(34)3659(専攻担当係)
<http://www.nao.ac.jp>

⑪国立天文台 水沢 VLBI 観測所

〒023-0861 岩手県奥州市水沢区星ガ丘町 2-12
電話 0197(22)7111(代表)

⑫国立天文台 野辺山宇宙電波観測所

〒384-1305
長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2
電話 0267(98)4300(代表)

⑬国立天文台 岡山天体物理観測所

〒719-0232
岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5
電話 0865(44)2155(代表)

⑭国立天文台 ハワイ観測所

650 North A'ohoku Place, Hilo, Hawaii 96720
U.S.A.
電話 1-808-934-7788(代表)

⑮国立天文台 チリ観測所

Calle Joaquin Montero 3000, Oficina 702,
Vitacura, Santiago, Chile
電話 56-2-2656-9253

⑯大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

核融合科学研究所
核融合科学専攻(物理科学研究科)
〒509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6
電話 0572(58)2222(代表)
電話 0572(58)2042(専攻担当係)
<http://www.nifs.ac.jp>

⑰国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所
宇宙科学専攻(物理科学研究科)
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1
電話 042(759)8012(専攻担当係)
<http://www.isas.jaxa.jp/sokendai/>



⑱大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

(つくばキャンパス)
加速器研究施設・共通基盤研究施設
加速器科学専攻
(高エネルギー加速器科学研究科)
物質構造科学研究所
物質構造科学専攻
(高エネルギー加速器科学研究科)
素粒子原子核研究所
素粒子原子核専攻
(高エネルギー加速器科学研究科)
〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1
電話 029(864)1171(代表)
電話 029(864)5128(専攻担当係)
<http://www.kek.jp>

⑲大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

(東海キャンパス)
〒319-1106 茨城県那珂郡東海村大字白方 203-1

⑳大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所
統計科学専攻(複合科学研究科)
〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3
電話 050(5533)8500(代表)
電話 050(5533)8513-8514(専攻担当係)
<http://www.ism.ac.jp/>

㉑大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立極地研究所
極域科学専攻(複合科学研究科)
〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3
電話 042(512)0608(代表)
電話 042(512)0613(専攻担当係)
<http://www.nipr.ac.jp>

㉒国立極地研究所 昭和基地

極域科学専攻(複合科学研究科)

㉓大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所
情報学専攻(複合科学研究科)
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター
電話 03(4212)2000(代表)
電話 03(4212)2110(専攻担当係)
<http://www.nii.ac.jp>

㉔大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立遺伝学研究所
遺伝学専攻(生命科学研究所)
〒411-8540 静岡県三島市谷田 1111
電話 055(981)6707(代表)
電話 055(981)6720(専攻担当係)
<http://www.nig.ac.jp>





沿革

1982(昭57)年6月	国立大学共同利用機関所長懇談会が「国立大学共同利用機関における大学院の設置について」を要望	9月	葉山キャンパスにおいて先導科学研究科棟(3,060㎡)着工
1986(昭61)年4月	国立大学共同利用機関所長懇談会が「大学院問題に関するワーキング・グループ」での検討結果に基づき「総合研究大学院大学の基本構想について」を取りまとめ 岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備調査室及び同創設準備調査委員会を設置	1999(平11)年4月	文化科学研究科に日本歴史研究専攻、数物科学研究科に素粒子原子核専攻設置、学生受入先導科学研究科学生受入
1987(昭62)年3月	総合研究大学院創設準備調査委員会が「総合研究大学院の基本構想」を取りまとめ	6月	先導科学研究科棟竣工
5月	岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備室及び同創設準備委員会を設置	2001(平13)年4月	3代学長に小平桂一(理学博士)就任 文化科学研究科にメディア社会文化専攻設置、学生受入
7月	総合研究大学院創設準備委員会が「総合研究大学院大学(仮称)の創設準備について—中間まとめ—」を取りまとめ	7月	葉山キャンパスにおいて図書館棟(1,427㎡)着工
1988(昭63)年4月	岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院大学創設準備室及び同創設準備委員会を設置	2002(平14)年2月	図書館棟竣工
5月	本学の設置を規定した「国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和63年法律第67号)」公布、施行	4月	数物科学研究科に情報学専攻設置、学生受入
9月	総合研究大学院大学創設準備委員会が「総合研究大学院大学の創設準備について」を取りまとめ	2003(平15)年4月	文化科学研究科に日本文学研究専攻、数物科学研究科に宇宙科学専攻設置、学生受入
10月	総合研究大学院大学開学 大学本部は東京工業大学長津田キャンパス内に設置 数物科学研究科 ・統計科学専攻 ・加速器科学専攻 ・放射光科学専攻 ・構造分子科学専攻 ・機能分子科学専攻 生命科学研究所 ・遺伝学専攻 ・分子生物機構論専攻 ・生理科学専攻 (学生受入は平成元年4月) 初代学長に長倉三郎(理学博士)就任	10月	「国立大学法人法(平成15年法律第112号)」公布、施行
1989(平元)年4月	文化科学研究科(地域文化化学専攻、比較文化化学専攻)を設置 3研究科学生受入	2004(平16)年4月	国立大学法人総合研究大学院大学発足 学長に小平桂一(理学博士)就任 数物科学研究科を物理科学研究科(構造分子科学専攻、機能分子科学専攻、天文科学専攻、核融合科学専攻、宇宙科学専攻)、高エネルギー加速器科学研究科(加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻)、複合科学研究科(統計科学専攻、極域科学専攻、情報学専攻)の3研究科に改組、数物科学研究科を廃止 生命科学研究所を博士後期課程から博士後期課程を併設した5年一貫制博士課程に改組、学生受入 教育研究交流センター及び教育研究情報資料センターを統合し、葉山高等研究センターに改組
1991(平3)年4月	教育研究交流センター設置	2005(平17)年4月	生命科学研究所分子生物機構論専攻を基礎生物学専攻に名称変更
1992(平4)年4月	文化科学研究科に国際日本研究専攻、数物科学研究科に天文科学専攻及び核融合科学専攻設置、学生受入	2006(平18)年4月	物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科を博士後期課程から博士後期課程を併設した5年一貫制博士課程に改組、学生受入
1993(平5)年4月	数物科学研究科に極域科学専攻設置、学生受入	2007(平19)年4月	先導科学研究科の生命体科学専攻、光科学専攻(博士後期課程のみ)を、生命共生体進化学専攻(博士後期課程を併設した5年一貫制博士課程)に改組、学生受入
1994(平6)年2月	神奈川県の大磯により、三浦郡葉山町に本部用地(27,000㎡)を(株)三井不動産から寄附により取得	2008(平20)年4月	4代学長に高畑尚之(理学博士)就任
3月	葉山キャンパスにおいて本部共通棟(4,205㎡)着工	2009(平21)年4月	メディア社会文化専攻の学生募集停止
6月	教育研究情報資料センター設置	2010(平22)年3月	葉山キャンパスにおいて学融合推進センター棟(1,033㎡)着工
1995(平7)年2月	大学本部は葉山キャンパスに移転、本部共通棟竣工	4月	葉山高等研究センターを学融合推進センターに名称変更
4月	2代学長に廣田榮治(理学博士)就任	2011(平23)年1月	学融合推進センター棟竣工
1997(平9)年4月	先導科学研究科(生命体科学専攻)を設置 (学生受入は平成11年4月)	2013(平25)年4月	情報基盤センターを設置
1998(平10)年4月	先導科学研究科に光科学専攻設置 (学生受入は平成11年4月) 数物科学研究科放射光科学専攻を物質構造科学専攻に名称変更	2014(平26)年4月	5代学長に岡田泰伸(医学博士)就任

教育研究組織

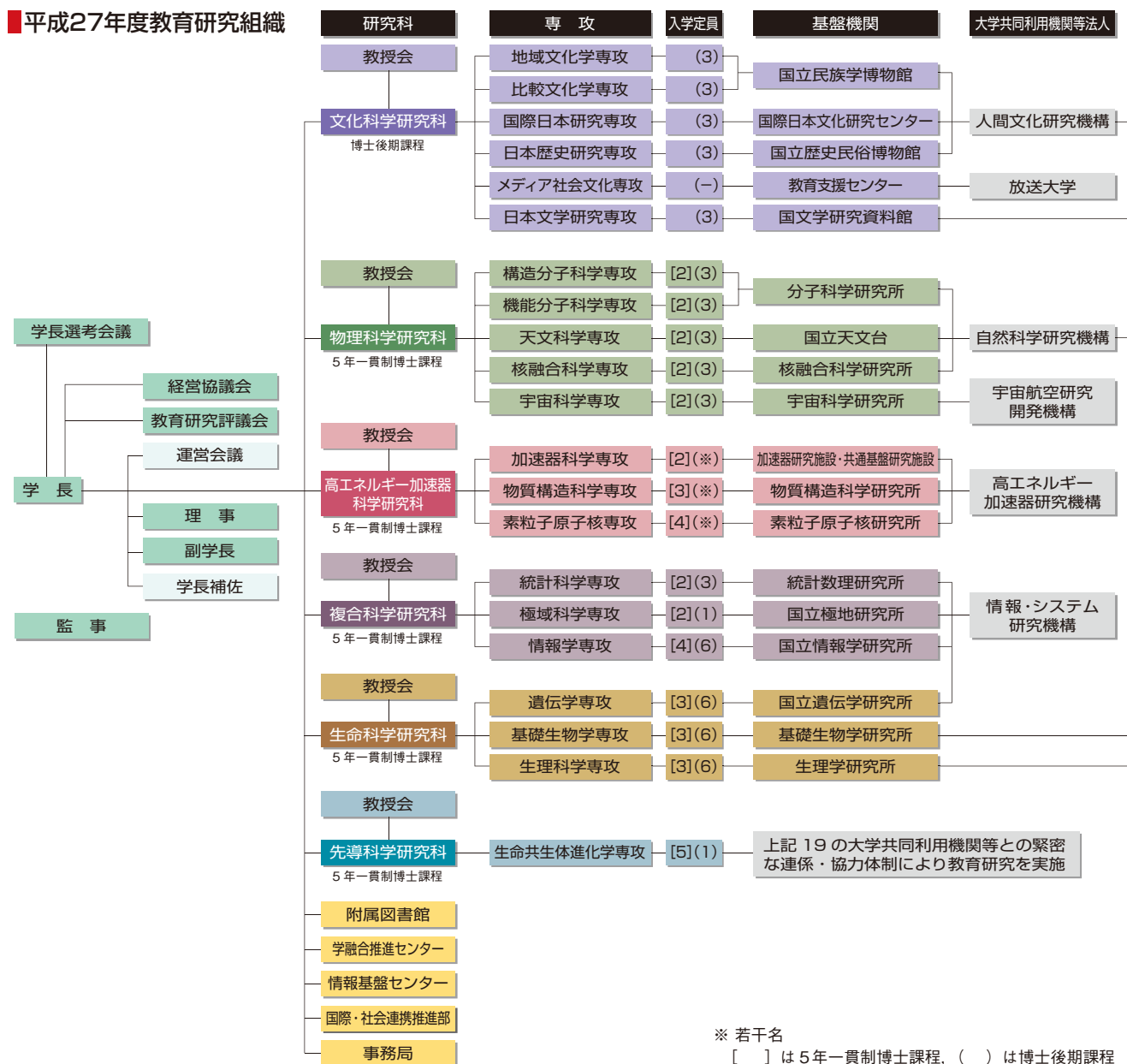
本学には、本学を構成している4つの大学共同利用機関法人が設置する17研究所等と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の研究機関を基盤機関（経過措置として旧独立行政法人メディア教育開発センターの事業を継承する放送大学学園を含む。）として、これら基盤機関を拠点に学問諸分野の高度で先端的な課題を中心に行う「分散型教育研究」と、大学全体として基盤機関の各専門分野を横断した教育研究を行う「総合型教育研究」があります。

本学は、6研究科21専攻及び附属図書館を設置しており、先導科学研究科を除く5研究科は、各専攻が設置されている基盤機関がそれぞれ担当（分散型教育研究）し、学生は専攻が設置される機関で研究活動を実施します。

先導科学研究科は、基盤機関及び葉山本部が緊密な連係・協力により共同して教育研究を実施します（総合型教育研究）。学生は、基本的に大学本部がある葉山キャンパス（神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村）を研究活動の中心とし、研究計画に応じて全国19の基盤機関に展開して研究指導等を受けることになります。

学問の新たな進展に適確に対応するために、研究科や専攻を横断した新たな教育課程として「特別教育プログラム」を展開しています。また、総合型教育研究を支援するための全学共同教育研究組織として、学融合推進センターを設置しています。

■平成27年度教育研究組織



※ 若干名

[] は5年一貫制博士課程、() は博士後期課程または博士課程3年次編入学の入学定員である。

総入学定員／5年一貫制博士課程：41名
博士後期課程及び博士課程3年次編入学：59名

組織

役職員

平成27年4月1日現在

学長	岡田 泰伸
理事（教育・運営）	長谷川真理子
理事（研究・社会連携・財務）	永山 國昭
理事（評価・国際連携）	田村 克己
監事（事業）	藤井 理行
監事（財務）	中元 文徳
（以上、法人役員）	

副学長	長谷川真理子
学長補佐（全学事業・総研大(葉山)年報担当）	平田 光司
学長補佐（学術情報基盤担当）	伏見 讓
学長補佐（学融合推進事業担当）	鎌田 進

■文化科学研究科

研究科長	小島 道裕
地域文化学専攻長	横山 廣子
比較文化学専攻長	笹原 亮二
国際日本研究専攻長	松田 利彦
日本歴史研究専攻長	小池 淳一
メディア社会文化専攻長	仁科 エミ
日本文学研究専攻長	山下 則子

■物理科学研究科

研究科長	中村 幸男
副研究科長	松原 英雄
構造分子科学専攻長	大峯 巖
機能分子科学専攻長	魚住 泰広
天文科学専攻長	林 正彦
核融合科学専攻長	竹入 康彦
宇宙科学専攻長	稲富 裕光

■高エネルギー加速器科学研究科

研究科長	神山 崇
副研究科長	小川雄二郎
加速器科学専攻長	小川雄二郎
物質構造科学専攻長	河田 洋
素粒子原子核専攻長	橋本 省二

■複合科学研究科

研究科長	柏木 宣久
副研究科長	小島 秀康
統計科学専攻長	宮里 義彦
極域科学専攻長	伊村 智
情報学専攻長	大山 敬三

■生命科学研究所

研究科長	長谷部光泰
副研究科長	藤森 俊彦
遺伝学専攻長	桂 勲
基礎生物学専攻長	山本 正幸
生理科学専攻長	井本 敬二

■先導科学研究科

研究科長	蟻川謙太郎
副研究科長	颯田 葉子
生命共生体進化学専攻長	佐々木 顕

■附属図書館

館長事務取扱	長谷川真理子
副館長	柳生 修二

■学融合推進センター

センター長	平田 光司
副センター長	颯田 葉子

■情報基盤センター

センター長	大田 竜也
-------	-------

■本部業務組織

事務局長	佐藤 正
総務課長	紅林 孝彰
財務課長	北川 雅崇
学務課長	木林 透
国際・社会連携課長	亀井 武志
学融合推進事務室長	貝塚 敏之
学術情報基盤事務室長	柴田 猛
監査主幹・アーカイブ室長	柳生 修二
広報社会連携室長	眞山 聡

教育研究評議会 平成27年4月1日現在

学長 岡田 泰伸
理事（教育・運営）・副学長 長谷川眞理子
理事（研究・社会連携・財務） 永山 國昭
理事（評価・国際連携） 田村 克己

文化科学研究科長 小島 道裕
物理科学研究科長 中村 幸男
高エネルギー加速器科学研究科長 神山 崇
複合科学研究科長 柏木 宣久
生命科学研究所長 長谷部光泰
先導科学研究科長 蟻川謙太郎

文化・地域文化学専攻長 横山 廣子
文化・国際日本研究専攻長 松田 利彦
文化・日本歴史研究専攻長 小池 淳一
文化・メディア社会文化専攻長 仁科 エミ
文化・日本文学研究専攻長 山下 則子
物理・構造分子科学専攻長 大峯 巖
物理・天文科学専攻長 林 正彦
物理・核融合科学専攻長 竹入 康彦
物理・宇宙科学専攻 教授 松原 英雄
高工・加速器科学専攻長 小川雄二郎
高工・物質構造科学専攻長 河田 洋
高工・素粒子原子核専攻長 橋本 省二
複合・統計科学専攻長 宮里 義彦
複合・極域科学専攻長 伊村 智
複合・情報学専攻長 大山 敬三
生命・遺伝学専攻長 桂 勲
生命・基礎生物学専攻長 山本 正幸
生命・生理科学専攻長 井本 敬二
先導・生命共生体進化学専攻長 佐々木 顕

文化・地域文化学専攻 教授 須藤 健一
文化・国際日本研究専攻 教授 小松 和彦
文化・日本歴史研究専攻 教授 久留島 浩
文化・日本文学研究専攻 教授 今西祐一郎
複合・統計科学専攻 教授 樋口 知之
複合・極域科学専攻 教授 白石 和行

経営協議会 平成27年4月1日現在

■ 学内代表者

学長 岡田 泰伸
理事（教育・運営）・副学長 長谷川眞理子
理事（研究・社会連携・財務） 永山 國昭
理事（評価・国際連携） 田村 克己
事務局長 佐藤 正

■ 学外有識者

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所長 常田 佐久
国立研究開発法人 科学技術振興機構日本科学未来館館長 毛利 衛
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構長 立本 成文
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長 北川源四郎
東京理科大学総合研究機構 教授 黒田 玲子
株式会社 資生堂 特別顧問 弦間 明
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 理事 郷 通子
筑波大学 教授・執行役員 徳永 保
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構長 佐藤 勝彦
大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構長 山内 正則
多摩六都科学館 館長 高柳 雄一
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所長 喜連川 優

文化科学研究科

人間の文化活動並びに人間と社会、技術及び自然との関係に係る総合的教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた高度な研究者及び高度な研究能力をもって社会に貢献する人材の育成を目的としています。

文化科学研究科とは

文化科学研究科は、総研大唯一の文系の研究科です。4つの研究機関（国立民族学博物館、国際日本文化研究センター、国立歴史民俗博物館及び国文学研究資料館）と放送大学 ICT 活用・遠隔教育センターをあわせた5つの機関を基盤としています。世界の諸民族の社会と文化に関して地域的・個別的に教育研究を行う「地域文化学専攻」、諸民族の社会・技術・宗教・芸術等について通文化的手法に基づき教育研究を行う「比較文化学専攻」、日本の社会と文化に関して国際的な比較と学際的な見地から総合化を図って教育研究を行う「国際日本研究専攻」、歴史学・考古学・民俗学を中心に関連諸科学との協業により日本歴史解明を目指した教育研究を行う「日本歴史研究専攻」、メディアと文化、社会、人間の相互作用について、学際的かつ総合的な教育を行う「メディア社会文化専攻」、そして、文学資源の実態、作品の形成・享受・制度・環境などを総合的に取り上げて教育研究を行う「日本文学研究専攻」の6専攻を置き、国際的・学際的な教育研究を通して、各界で活躍し得る視野の広い、国際性豊かな人材の養成を目指しています。

地域文化学専攻

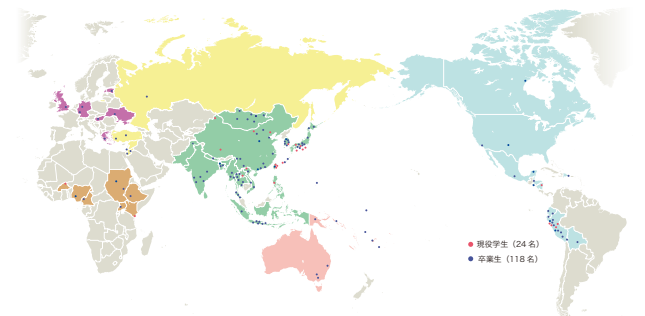
Department of Regional Studies

アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ及びオセアニア等諸地域に居住する諸民族の個別文化を研究対象とします。各々の文化のもつ特性や歴史性について考慮を払いながら、民族誌学的方法論に基づいた文化の記述と構造の把握を主要な目的としています。本専攻においては、現地調査に基づいて個別文化の記述的研究を積極的に推進する高度な専門性を持った研究者の養成を行います。



大学演習室での論文ゼミの様子
学生の発表を元に双方向のディスカッションは、参加者の視野を広げます

学生の研究フィールド・マップ



2015年1月現在
(地域文化学・比較文化学専攻)

研究科に設置される 専攻分野

- ・ 地域文化学専攻
- ・ 比較文化学専攻
- ・ 国際日本研究専攻
- ・ 日本歴史研究専攻
- ・ メディア社会文化専攻（※学生募集停止）
- ・ 日本文学研究専攻



■ 研究科長 小島 道裕
専門 日本中近世史

- 分野
- アジア地域文化研究
 - ヨーロッパ地域文化研究
 - アフリカ地域文化研究
 - アメリカ地域文化研究
 - オセアニア地域文化研究

比較文化学専攻

Department of Comparative Studies

本専攻では、比較社会、比較宗教、比較技術、比較言語、比較芸術、文化資源という6つの研究分野があります。諸民族文化の比較研究により、各々に通底する普遍性の発見と理論的解明を目指します。従来の文化人類学的方法論に加えて、情報科学や隣接諸科学の成果を導入し、新しい研究方法の開発を積極的にすすめて高度な専門性を持った研究者を養成します。



国立民族学博物館の展示場

学生は、民博が所蔵する豊富な標本資料や映像・音響および図書資料を利用できます

分野
比較社会研究
比較宗教研究
比較技術研究
比較言語研究
比較芸術研究
文化資源研究

国際日本研究専攻

Department of Japanese Studies

人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学術的な日本研究 (Japanese Studies) をすすめるために、「教育・研究指導分野」としては、本専攻の特色である全教員の指導による、単一の「国際日本研究」を設けています。

共通必修科目としては、「日本研究基礎論」「学際研究論」「論文作成指導」を置き、国際的な立場から「日本研究」の理論的・方法論的な指導を行っています。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の専攻を横断しうる総合性を備えた研究者の育成を目指しています。



国際日本文化研究センター 図書館

国内外を問わず、日本研究を行ううえで必要な図書・雑誌は「基本図書」として積極的に収集しています

講座
国際日本研究
[教育・研究指導分野]
国際日本研究／共通



日本歴史研究専攻

Department of Japanese History

国立歴史民俗博物館を基盤機関とする本専攻は、歴史学・考古学・民俗学、自然科学を含めた関連諸学を専門とする研究者が学際的な視点からの、実地調査を含む研究指導を行っています。本専攻の最大の特徴は、歴博の収蔵資料、各種の有形・無形の資料情報を研究に活用することができること、自然科学的な分析を行うために整備された高度な研究設備を利用できることです。日本の歴史と文化について、資料に基づいた高度な総合的分析能力をもつ研究者、また広い視野と国際的な感覚を持って社会に貢献できる人材の育成を目指します。

<http://www.rekihaku.ac.jp/> → 「研究・教育・資料」 → 「教育」 → 「大学院教育」



身近にある所蔵資料を利用した講義風景
約23万点の収蔵資料や各種の高度な研究設備を活用することができます

講座

日本歴史研究

[資料研究系]

歴史資料研究／資料論・展示研究／分析・情報科学

[社会史研究系]

社会論／技術史・環境史／地域文化論

基礎演習Ⅰ・Ⅱ／集中講義A・B・C



メディア社会文化専攻(学生募集停止)

Department of Cyber Society and Culture

高度情報通信社会において、メディアと通信技術が、社会、文化、人間といかに相互作用するかを学際的、総合的に解明する研究と教育を行います。

高度化するメディアと通信技術は、人間のコミュニケーション、思考や行動の様態に影響を与え、それを介して社会や文化に変化を促します。また、人間の社会と文化の方が、そこで利用されるメディアと通信技術の姿を規定していきます。本専攻では、このような多様なインタラクションを、関連諸科学の成果と方法を統合し、かつ、先端的なメディア技術を駆使しながら解明し、新たな総合的メディア研究の分野を生み出す創造的な研究者を養成します。



拡張現実感を利用した学習環境の改善
様々なメディアを活用した学習・教育環境について、方法、効果、課題などの研究を行っています

講座

メディア社会文化

[教育・研究指導分野]

メディア文化／メディア社会／メディア認知行動

TOPICS

文化科学研究科の教育事業

文化科学研究科6専攻の基盤機関は豊富かつ多様な学術資料を所蔵しています。文化科学研究科は豊富な学術資料が利用できる特色を活かし、専門分野における深い理解を促す研究指導を行うとともに、分野横断的に学ぶことができる専攻間連携教育事業を行っています。このことによって高度な専門知識と広い視野をあわせ持った、従来の人文科学の壁を越える研究者を育成することを目指しています。



文化科学研究科 学術フォーラム 2014



日本文学研究専攻

Department of Japanese Literature

日本文学研究専攻の基盤機関である国文学研究資料館は、原本資料調査に基づいた、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関です。当専攻では、それらの原典資料を活用しながら、専門的な調査技術と総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行い、論文指導を通じて、自立した研究者を育成します。

個々の教員に指導を受けるばかりでなく、複数の教員による指導体制のもとに、体系的なカリキュラムによる教育を実施し、幅広い視野と国際的な感覚を持ち、社会に貢献できる研究者の育成を目指しています。



国文学研究資料館所蔵 文正草子

講座

日本文学研究

[教育・研究指導分野]

共通科目／文学資源研究／文学形成研究／文学環境研究

物理科学研究科

物質、宇宙、エネルギーに関する物理及び化学現象を対象とした学問分野において、広い視野を備え世界の第一線で活躍する研究者及び高度の専門知識をもって社会に貢献する人材の育成を目的としています。

物理科学研究科とは

物理科学研究科では、物質、宇宙、エネルギー、生命の物理科学に関する教育研究活動を行っています。研究科を構成する5つの専攻は、分子科学研究所、国立天文台、核融合科学研究所、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所の4つの大学共同利用機関等に置かれており、そこでは、通常の大学では持つことが困難な特殊装置や大型装置が設置され、大規模研究プロジェクトや国際的に最先端の研究プロジェクトが数多く推進されています。各機関では客員教員、博士研究員、留学生など多くの外国人研究者を受け入れ、国際的環境にもあふれています。このような優れた研究環境の下で、学生達は物理科学のフロンティアを体感し、未来の科学を自らの手で創造する気概を持って勉学研究にいそしんでいます。

本研究科では、1人の学生に2人以上の教員が付く複数教員指導体制を取っており、マンツーマンの生きた研究指導が行われます。また、リサーチ・アシスタント（RA）制度、准研究員制度による学生への経済的支援も充実し勉学研究に集中できる環境が整っています。多くの意欲にあふれた学生諸君が本研究科に入学し、物理科学の未来を担う研究者として育てゆくことを期待します。



構造分子科学専攻

Department of Structural Molecular Science

詳細な構造解析から導かれる分子および分子集合体の実像から物質の静的・動的性質を明らかにすることを目的として教育・研究を一体的に行います。従来の分光学的および理論的な種々の構造解析法に加え、新しい動的構造の検出法や解析法を用いる総合的構造分子科学の教育・研究指導を積極的に推進します。



X線光電子分光による物性解析
不安定化合物のX線光電子分光による物質の電子状態解析と物性評価

研究科に設置される 専攻分野

- ・ 構造分子科学専攻
- ・ 機能分子科学専攻
- ・ 天文科学専攻
- ・ 核融合科学専攻
- ・ 宇宙科学専攻



■ 研究科長 中村 幸男
専門 プラズマ理工学、核融合科学

講座

電子構造学

[教育・研究指導分野]

理論化学／構造光分子科学／基礎電子化学／
極端紫外光分光学

物質化学

[教育・研究指導分野]

物性化学／構造物性科学／構造生体分子科学／
錯体物性化学



機能分子科学専攻

Department of Functional Molecular Science

物質の持つ多種多様な機能に関して主として原子・分子レベルでその発現機構を明らかにし、さらに分子および分子集合体の新しい機能の設計、創製を行うことを目的として教育・研究を一体的に行います。新規な機能測定法や理論的解析法の開発を含む機能分子科学の教育・研究指導を積極的に推進します。



新奇有機化合物合成
お椀型バッキーボウル分子スマネンの化学

講座

分子動力学

[教育・研究指導分野]

機能分子基礎理論／機能生体分子科学／生体分子科学／錯体触媒化学

電子動力学

[教育・研究指導分野]

量子動力学／光化学／光物理／機能物性科学



天文科学専攻

Department of Astronomical Science

世界最先端の観測装置やスーパーコンピュータを有する研究環境の下で、天文学および関連する分野の観測的・理論的、また装置開発に関わる研究を通じ、世界第一線で活躍できる研究者、先端技術の発展を担う専門家、および高度な専門知識を背景に科学の普及に努める人材の育成を目的とします。



ハワイ島マウナケア山頂のすばる望遠鏡

講座

光赤外線天文学系講座

[教育・研究指導分野]

地上天文観測／光・赤外線望遠鏡システム／惑星／太陽・恒星・星間物質／銀河・宇宙

電波天文学系講座

[教育・研究指導分野]

地上天文観測／電波望遠鏡システム／太陽・恒星・星間物質／銀河

共通基礎天文学系講座

[教育・研究指導分野]

精密計測／大気圏外観測／天文情報数値解析／地球・惑星・太陽／銀河・宇宙

核融合科学専攻

Department of Fusion Science

未来のエネルギーといわれる核融合エネルギーの開発には、プラズマに関する実験・理論の両面からの研究が相互補完的に行われる必要があります。本専攻では、核融合科学の発展を目指して、核融合プラズマの実験を推進するために必要な実験法及び工学的応用技術に関する研究指導と、プラズマの複雑な挙動を解明するために必要なシミュレーション研究を中心とする研究指導を行います。



大型ヘリカル装置(LHD)

講座

核融合システム

[教育・研究指導分野]

核融合システム・装置工学／プラズマ制御／プラズマ加熱／プラズマ計測

核融合シミュレーション

[教育・研究指導分野]

プラズマシミュレーション／粒子シミュレーション／磁気流体シミュレーション

宇宙科学専攻

Department of Space and Astronautical Science



小惑星探査機「はやぶさ2」
小惑星に人工クレーターを作り、そこにタッチダウンする想像図。©池下章裕

宇宙飛翔体を用いた宇宙探査理工学、宇宙観測科学、宇宙工学の諸分野にわたって、高度な教育研究を行います。本専攻では、先端宇宙工学とそれに支えられた宇宙観測・宇宙探査について、理論研究、観測データ解析、及び先端的な研究開発の実践を含む包括的な研究指導を受けることができます。また、世界最先端の大規模プロジェクト型研究に身近に接することで、宇宙科学の豊かな学識のみならず、プロジェクトの企画・立案能力の習得が期待できます。



「射点に立つイプシロンロケット」
© JAXA

講座

宇宙探査理工学

[教育・研究指導分野] 宇宙探査理工学

宇宙観測科学

[教育・研究指導分野]

飛翔体天文学／飛翔体太陽系科学

宇宙工学

[教育・研究指導分野] 宇宙工学

高エネルギー加速器科学研究科

本研究科は高エネルギー加速器を用いて、自然界の各階層に存在する物質の構造・機能及びその原理を解明する実験的研究及び理論的研究、並びに加速器及び関連装置の開発研究を行い、自然科学の進展に寄与するとともに、社会に貢献する人材の育成を目的としています。

高エネルギー加速器科学研究科とは

高エネルギー加速器科学研究科には加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻の三専攻が属し、それぞれの専攻は高エネルギー加速器研究機構（KEK）の加速器研究施設（および共通基盤研究施設）、物質構造科学研究所そして素粒子原子核研究所を基盤機関としています。

素粒子原子核専攻では、加速器を使用した素粒子原子核実験に参加することや理論研究を展開することで、宇宙の成り立ちや物質の究極の構造や原理について学び研究します。物質構造科学専攻では、分子や結晶構造などから生命体など多彩な形態で存在する種々の物質について、原理から応用までを含んだ幅広い立場から学び研究します。加速器科学専攻では、以上の研究を遂行するために必須な、陽子、電子・陽電子、ニュートリノ、X線、中性子、ミュオンなどの各種量子ビームを生成する高エネルギー加速器および関連する装置や技術について学び研究します。

本研究科では、KEKで遂行される研究活動を基礎に、全専攻が緊密に協力して幅広い分野の大学院教育を展開し、新しい時代の研究者養成を期しています。

研究科に設置される専攻分野

- ・ 加速器科学専攻
- ・ 物質構造科学専攻
- ・ 素粒子原子核専攻



■ 研究科長 神山 崇
専門 中性子回折

加速器科学専攻

Department of Accelerator Science

究極の物質探求装置「加速器」を科学する

高エネルギー加速器は、最も単純な素粒子・原子核から原子・分子そして複雑精妙な生命体に至る、自然界の各階層のさまざまな構成要素を探究する強力な道具です。さらに近年、産業や医療分野など直接人々の役に立つ分野での活躍も目覚ましく進展しています。本専攻では、加速器性能の向上を通じた自然科学の推進を主目標に、加速器の原理研究や先端的加速器技術の開発など、理論・実験両面から加速器教育を実施します。あわせて、密接に関連する放射線科学、コンピュータ・サイエンス、超伝導技術、機械工学などの教育および研究を通じて、加速器科学の将来を中心的に担う人材の総合的育成を行います。



先端加速器試験装置（ATF）

講座

加速器科学

[教育・研究指導分野]

ビーム物理学／ビーム開発／加速器計画と設計／加速器基礎技術／磁場の科学／高周波加速の科学／真空の科学／コンピュータ・サイエンス／放射線の科学／加速器開発のための機械工学

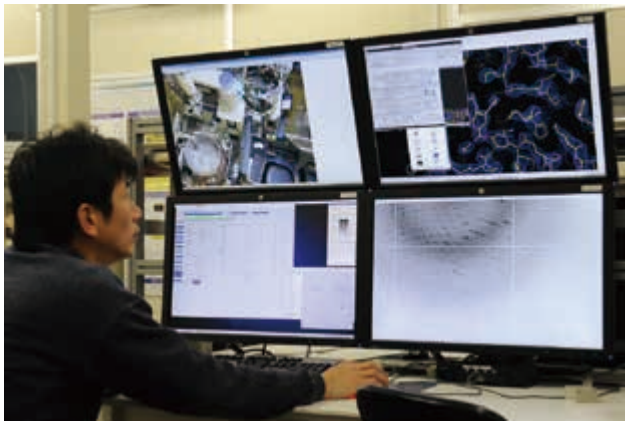


物質構造科学専攻

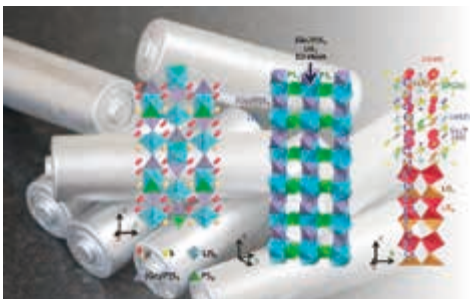
Department of Materials Structure Science

放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子が拓くナノの世界

大型加速器から発生する放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子の4つのビームプローブを用いて、物理・化学・生物・医学などの様々な分野にわたる物質構造科学研究を行います。とりわけ、世界最先端のビームの発生と加工に関する学理と応用開発研究、これらのビームプローブを用いた物質構造と機能に関する基礎と先進的応用の研究を行い、物質構造科学研究の将来を担い、またその発展に貢献する人材の養成を目指します。



放射光を用いたタンパク質の立体構造解析実験



東工大とトヨタ自動車が開発した世界最高のリチウムイオン伝導率を示す $\text{Li}_{10}\text{GeP}_2\text{S}_{12}$ の結晶構造を放射光と中性子で決定した。

左から全体の結晶構造、骨格構造、リチウムイオン伝導経路を示す。右図上部からリチウムイオンが上下方向に非常に大きく熱振動していること、リチウムが超イオン伝導に関与していることが読み取れる。

講座

物質構造科学

[教育・研究指導分野]

放射光科学／放射光物質構造科学／
中性子ミュオン科学

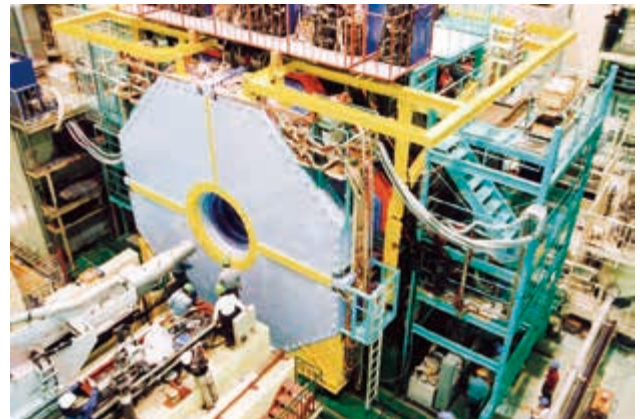


素粒子原子核専攻

Department of Particle and Nuclear Physics

宇宙と物質の謎にせまる

素粒子原子核物理学は、物質の究極の構成要素とそれらに働く力を明らかにしようとする学問です。本専攻は、エネルギーフロンティアを目指す実験から、大強度粒子ビームを使った精密測定によって素粒子・原子核の性質を明らかにする実験にいたる世界をリードする多彩な実験と、宇宙から超弦理論までを広くカバーする理論研究を背景に、これらの分野をリードする研究者の養成を目指しています。宇宙と物質の謎を解き明かす世界最先端の研究に参加してみませんか。



2015年度の運転開始を目指して改修が進む
SuperKEKB加速器とBelle II実験 ©KEK

講座

素粒子原子核理論

[教育・研究指導分野]

素粒子基礎理論／素粒子現象論／格子ゲージ理論／ハドロン原子核理論／宇宙物理理論

素粒子原子核実験

[教育・研究指導分野]

Bファクトリー／ハドロンコライダーエネルギーフロンティア／レプトンコライダーエネルギーフロンティア／ニュートリノ物理学／K中間子稀崩壊／ミュオン稀過程／ミュオン精密測定／原子核／不安定核／中性子基礎物理／実験的宇宙論／ビームダイナミクス／超伝導低温工学／計測システム技術

複合科学研究科

地球、環境、社会等人間社会の変容に関わる重要課題を対象とした横断型の教育研究を行い、情報とシステムの観点からこれら課題の解決に貢献する研究能力又は研究開発能力を備えた次世代を担う研究者及び高度専門家の育成を目的としています。

複合科学研究科とは

複合科学研究科では、複雑な自然現象、社会現象やその発現・機能・相互作用等を司るシステムについて、総合的あるいは分野横断的な視点から教育研究を行います。そして、そのことを通じて21世紀における人間社会の変容に関わる様々な重要課題に対して、情報とシステムの観点に立脚する学術研究を担ってゆく研究者や高度専門家の育成をめざしています。研究科を構成する統計科学、極域科学、情報学の各専攻は、本来、各々が横断型の研究分野を担っていますが、本研究科では、共通科目を設定するなど、これら専攻が緊密に連携することによって、教育研究の一層の充実を図っています。

研究対象は多岐にわたりますが、総合科学としての理念、研究におけるアプローチ、方法論は本研究科の根幹として共通するものです。そして、統計科学、情報学では、種々の事象に通底する蓋然性や複雑性を統計数理と情報によって解明し、また極域科学は地球の特異点たる極地での地球物理と生物の複雑系を総合科学として解き明かして行きます。こうした教育研究を通じて、さらに新たに、かつ、先導的先進的な研究領域を融合しつつ体系化することにより、複合科学の一層の展開を志向しています。

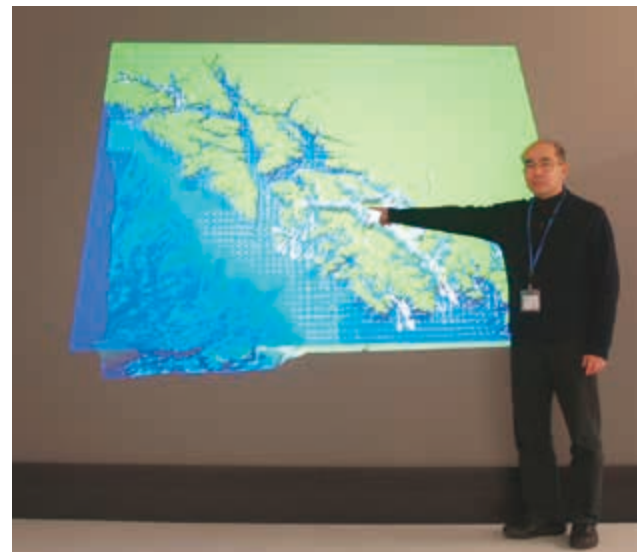


統計科学専攻

Department of Statistical Science

複雑な対象、氾濫する情報と不確実性のもと、データによる合理的な推論、有効な予測、新知見の発見のための統計モデルや統計的方法を研究するのが統計科学です。

本専攻では、次のような人材の育成を目的としています。データに基づく、現実世界からの情報ないし知識の抽出を実現するために、モデリング、予測、推論、データ収集の設計及びこれらの基礎、数理、計算、応用に係る教育研究を行い、複雑に相互に絡み合うさまざまな重要課題の解決に貢献する独創性豊かな研究能力を備えた人材の育成です。



可視化システム
(Visualization System)

研究科に設置される 専攻分野

- ・ 統計科学専攻
- ・ 極域科学専攻
- ・ 情報学専攻



■ 研究科長 柏木 宣久
専門 統計科学

講座

統計科学

[教育・研究指導分野]

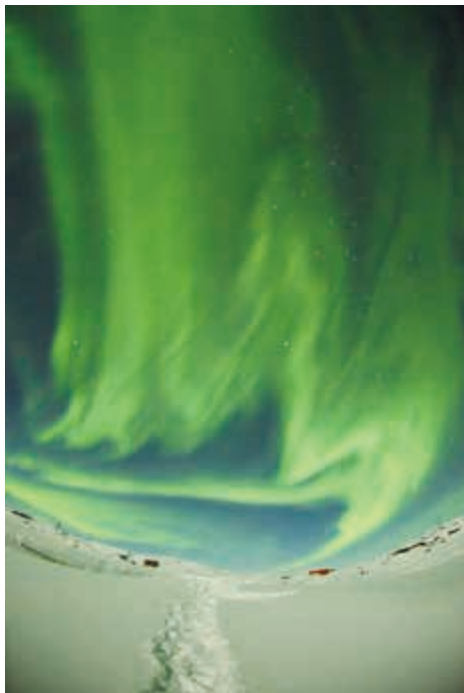
モデリング／データ科学／数理・推論



極域科学専攻

Department of Polar Science

地球は太陽系唯一の水惑星であり、人類始め多種多様な生命体が生息しています。この惑星において人類が持続ある発展を願うとき、地球の成り立ちや環境をより良く理解する必要があります。近年、宙空圏、気水圏、地圏及び生物圏の変動現象が、両極域において特徴的な現れ方をすることがわかって来ました。それら変動の個々の素因と複雑な相互作用を地球システム全体のなかで究明することが極域科学の目的です。極域科学はフィールドサイエンスの要素がとて強いので、研究遂行のための具体的方法についての教育・研究を重視しています。そして、幅広い地球科学研究に柔軟に対応できる創造性豊かな研究者を養成します。



南極のオーロラ
(撮影 平成 22 年 3 月修了 鈴木秀彦)

講座

極域科学

[教育・研究指導分野]

極域宙空圏／極域気水圏／極域地圏／極域生物圏



情報学専攻

Department of Informatics

情報学 (Informatics) は、情報に関する諸問題を広範かつ総合的に取り扱う新しい学問分野です。伝統的な情報科学・情報工学を中核としつつ、人間や社会を対象とする人文情報学・社会情報学をカバーする複合科学であり、情報の表現、収集、流通、管理、処理、利用、及びこれらを支える情報技術 (IT) を包含しています。

本専攻では、国立情報学研究所の最先端の研究環境や学術情報基盤を活用し、多くの外国人研究者や留学生が集う国際色豊かな雰囲気の中で、基礎から実践まで幅広い能力と高度な専門性を身につけた研究者や高度専門家を養成します。



ソーシャル・フィジカル・システムによる実世界状況把握のための「モバイルセンシング」
(相原健郎 研究室)

講座

情報学

[教育・研究指導分野]

情報基礎科学／情報基盤科学／ソフトウェア科学／
情報メディア科学／知能システム科学／情報環境科学

生命科学研究科

生命現象を分子から個体、集団に至る様々なレベルで解明するための教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた次世代の生命科学研究を担う研究者の育成を目的としています。

生命科学研究科とは

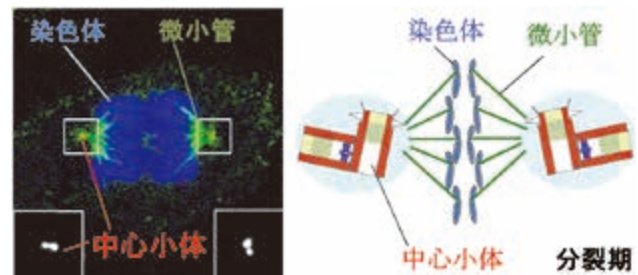
生命現象を分子から個体、集団に至る様々なレベルで解明するための教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた次世代の生命科学研究を担う研究者の育成を目的としています。

生命科学研究科の大学院プログラムは生命科学の最前線を開拓する独立した創造力豊かな研究者の育成を目指しています。研究科を構成する専攻の基盤となっている3つの国際的に卓越した研究所（国立遺伝学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所）は生命科学の多様な分野の研究を推進しており、専攻の枠を超えた分野横断的な研究教育を目指しています。生命科学研究科は日本で最大数の生命科学系教員で構成されており、学生が複数の教員と相談しながら研究を進めることを可能とし、学生による独立した研究実施のために必要な研究環境を提供しています。各専攻所属の第一線の研究者による講義に加え、国内外の外部講師による最先端研究を紹介するセミナー、異分野融合の基礎となる教育プログラム、英語論文の書き方や英語での口頭発表・議論のための授業も含まれています。3専攻は毎年合同で研究発表会を開催して交流を深めているほか、インターネットを使った講義システムで他専攻の講義を聴講することも可能としています。生命科学を愛し、楽しみ、そして、その新しい扉を開く夢を持った学生を待っています。

遺伝学専攻

Department of Genetics

遺伝学専攻は、生命現象を遺伝情報との関連の下に解明することを目的とし、国立遺伝学研究所に整備された多様な実験生物系統やDNAデータベースを活用して、分子遺伝学、細胞遺伝学、発生遺伝学、行動遺伝学、集団遺伝学、進化遺伝学、ゲノム生物学、生命情報学などの分野で、最先端の教育・研究を行います。また、大学院生が自ら「一人前の研究者に育つ」という目標を達成するため、「一人一人の大学院生を全教員で指導する」という理念のもとに大学院生教育を行っています。たとえば、独自の「プログレスレポート制度」では、大学院生が指導教員以外の複数教員と議論し様々なアドバイスを受ける機会が、半年に1回提供されます。充実した科学英語教育プログラムやリサーチアシスタント制度などによる経済支援も遺伝学専攻の大きな特長です。



ヒト培養細胞における細胞分裂期の中心小体
 (左) 蛍光顕微鏡写真。染色体(青)は色素DAPIで、中心小体(赤)と微小管(緑)は各々、centrin及び α -tubulinを認識する抗体で免疫染色。
 (右) 細胞分裂期における紡錘体形成の説明。

研究科に設置される 専攻分野

- ・ 遺伝学専攻
- ・ 基礎生物学専攻
- ・ 生理科学専攻



■ 研究科長 長谷部 光泰
 専門 生物進化学

講座
 分子・細胞遺伝学
 発生遺伝学
 進化情報遺伝学
 ゲノム遺伝学



基礎生物学専攻

Department of Basic Biology

基礎生物学専攻では、基礎生物学研究所の充実した設備と環境を活かして、動植物の高次生物現象に関して複数指導体制のもと創造的な研究を行う高度な研究者を養成します。細胞の構造・機能・増殖・分化、光合成、器官形成、神経形成、環境に対する生体の応答、生物間の共生、進化などの諸問題について、様々なモデル生物を活用し、分子生物学、数理生物学、オミクスやバイオイメーシングなどの最新実験技術を駆使し先端的研究を行うことを通じて教育研究を行います。



研究対象となっている様々なモデル生物たち

講座

細胞生物学
発生生物学
環境生物学
神経生物学
進化多様性ゲノム生物学
生殖発生学



生理科学専攻

Department of Physiological Sciences

生理科学は、生体ははたらく仕組みを分子・細胞などの構成要素とシステムの両面から解き明かす学問であり、病態の理解に重要な基盤を提供します。ゲノム構造が明らかになり、ますます生理科学の重要性は増えています。

本専攻では、生体の基本構造である分子レベルから細胞レベル、さらにシステムとして構成される個体レベルに至るまで、生体機能を統合的に研究できるように教育・研究指導を行っており、生理学・脳神経科学を中心とした医学・生命科学の未来を切り開く研究者を養成します。



研究対象の細胞、組織、臓器と実験方法

講座

分子生理学
細胞生理学
情報生理学
統合生理学
大脳生理学
発達生理学

先導科学研究科

本学創設の理念及び目的に基づき、学融合により従来の学問分野の枠を超えた国際的な学術研究の推進及び学際的で先導的な学問分野の開拓を行い、国際的に通用する高度な専門性と広い視野を備えた人材の育成を目的としています。

先導科学研究科とは

先導科学研究科は、大学共同利用機関と共同して、国際性豊かで高度な大学院教育及び学問の新分野を開拓し、学問分野にとらわれない創造性豊かな研究者を養成する、という本学設立理念を実施する研究科として位置付けられています。また、研究科の名称である「先導科学」とは、一般的な学問分野を表わす名称ではなく、本学設立理念である科学の新しい流れを創造する先導的学問分野の開拓を目指すための研究科であることを表現しています。

本研究科では従来の縦割りの専門分野を横断し、先導的な学問領域を確立するとともに、広い視野と新しい視点を持ち、国際的に活躍できる、「専門性の高いプロフェッショナル」そして、人間・科学・社会について考えることのできる「良識人」の育成を目指しています。このような新たな学問領域の確立と人材育成の一環として、平成19年度から、柔軟な5年一貫制博士課程と後期博士課程を併設する<生命共生体進化学専攻>を開設しました。生命共生体進化学専攻は、大学共同利用機関との連携を目指しながら、葉山キャンパスを中心に活動します。

研究科に設置される専攻分野

・生命共生体進化学専攻

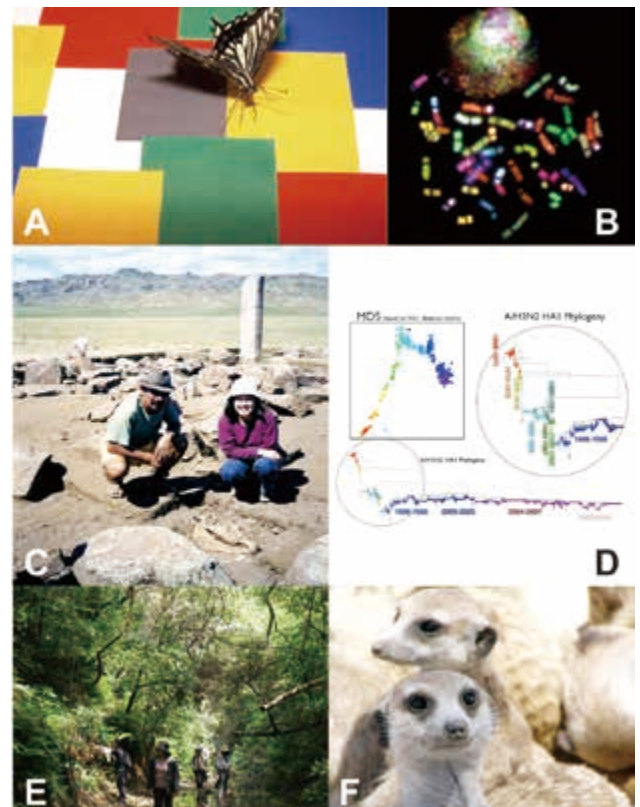


■研究科長 蟻川 謙太郎
専門 神経行動学、感覚生理学

生命共生体進化学専攻

Department of Evolutionary Studies of Biosystems

38億年の歴史の果て、地球上には数百万種にもおよぶ多様な生物が存在しています。進化は、生物の歴史性と多様性を理解するためのカギであり、生命の異なる階層をつなぐ概念を提供する理論でもあります。私たち人間の営みも、その延長上にあります。本専攻では、専門分野のみならず、生物学を広く見渡す総合力を養うとともに、現代の科学と社会のかかわりに関して考察します。新しい生命観、人間観を切り拓き、これからの持続可能な社会の構築に貢献できる国際人を養成します。



A. カラーモンドリアン上で求蜜行動中のアゲハ B. マルチカラーFISH法による染色体像(カニクイザル; $2n=42$) C. モンゴルの遺跡で、出土したウマの骨を前に D. 数理モデルを用いたインフルエンザウイルスの進化予測 E. 森戸川での野外調査実習 F. 家族で群れを形成し、血縁個体間で様々な協力的行動を行うミーアキャット

分野 生命科学
進化生物学／理論生物学／行動生物学／統合人類学

科学と社会
科学と社会

■ 附属図書館



■ 図書館長事務取扱 長谷川 真理子
専門 人類学、行動生態学

附属図書館は、葉山キャンパスの教員・学生の為のみならず、大学共同利用機関等の図書室を基盤とする本部図書館の機能も備え、本学が目指す高度な教育研究の展開と先導的学問分野の開拓に資するため、多様な学術資料の収集・整理・公開を行っています。

閲覧・貸出し等では、葉山キャンパスの教員・学生は24時間利用可能となっており、各研究科・専攻に共通する基本的図書および先導的・学際的研究分野に関連する専門図書・雑誌を収集・配架しています。

また、全国に分散している基盤機関の教員・学生が共通に使えるよう、電子ジャーナル、電子ブックを導入し、利用に供しています。

さらに、館内設置機器による映像音響資料の利用も可能となっています。

そのほか、本学が授与した博士の学位論文、本学が出版した図書、雑誌、葉山キャンパスの教員・学生が発表した学術論文等がインターネットを通じて無料で閲覧できる機関リポジトリを提供しています。

各種データベースとして、本館が所蔵する図書・雑誌のOPAC（オンライン所蔵目録）、世界最大級の書誌・引用文献データベース Scopus、HRMS（High-Resolution Molecular Spectroscopy Database）、本学教員の教育研究業績データベース、小松左京コーパス、貝塚データベース、鶏データベースなども提供しています。

これらの資料、データは、本学の教員・学生が利用できるだけでなく、近隣住民など一般の方にも解放されています。

■ 図書館で利用可能な学術情報資料数

図書：(和) 約 22,200 冊

(洋) 約 21,600 冊

雑誌：(和) 約 110 誌

(洋) 約 270 誌

電子ブック：約 53,000 冊

電子ジャーナル：約 5,200 誌

機関リポジトリ：約 4,700 種

H27.4.1 現在



総研大全学で利用できる電子ジャーナル

BioOne / JSTOR / Science Direct / Springer-LINK /
Wiley-Blackwell / Geo Science World
Scopus (書誌・引用 DB・情報検索サービス)

※上記以外に葉山キャンパス内向けの電子ジャーナルも提供しています。

<http://www.lib.soken.ac.jp>

お問い合わせ先：附属図書館

TEL：046-858-1528、1540

FAX：046-858-1607

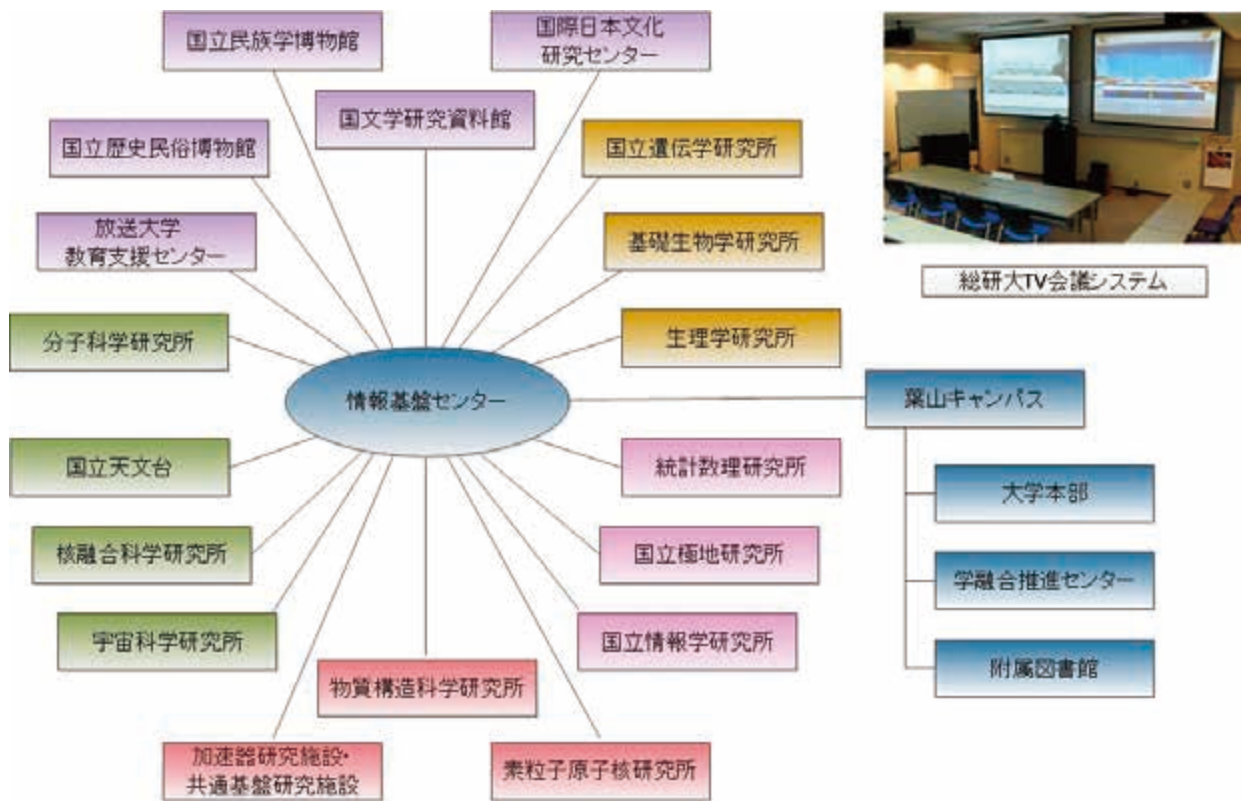
E-mail：lib@ml.soken.ac.jp

情報基盤センター



■センター長 大田 竜也
専門 分子進化学、生物システム進化学

情報基盤センターは、本学の情報環境を整備し各種情報サービスを提供するとともに、情報メディアの利用促進を支援する学内拠点施設として平成25年度に設立されました。本学を構成する基盤機関との連携のもと全学的な情報環境を構築するとともに、横浜データセンターおよび葉山本部に設置された基幹情報ネットワークおよび情報システムの管理・運用を行っています。



総研大TV会議システム

全国に展開する大学共同利用機関、独立行政法人などの基盤機関および大学本部（葉山キャンパス）を結び、会議や委員会などの大学活動を支援しています。

TELAS@SOKEN（総研大TV講義支援システム）

専攻間連携を促進し、より広い視野をもって行う大学院教育や教育研究交流を支援しています。

総研大クラウド

大学内プライベート・クラウドとして学内教育連携の場を提供するとともに、学外への情報発信や学術交流ネットワーク構築の場として利用しています。

お問い合わせ先：情報基盤センター

TEL：046-858-1587

FAX：046-858-1633

E-mail：istc@ml.soken.ac.jp

学融合推進センター

学融合推進センターは、全学に開かれた自由闊達な学術交流を行う本学の教育研究の拠点施設として、研究科・専攻を超えた学融合による学際的で先導的な学問分野を開拓することを目的とし、次の3つの事業を中心に異分野連繋的・社会連携的な教育研究活動を展開していきます。

詳しい情報はセンターのホームページをご覧ください。

<http://cpis.soken.ac.jp/>



■センター長 平田 光司
専門 科学技術社会論、理論物理学、ビーム物理学

1 学融合教育事業

科学の総合性及び人間の総合性を付与する全学教育事業の推進に関すること

- ①総合教育科目（全学共通科目）の企画及び実施
- ②総合教育科目（全学共通科目）の企画及び実施に関する支援
- ③「科学と社会」教育事業の推進
- ④その他教育関連事業

2 学融合研究事業

学内外共同研究及びその他の研究関連事業の企画及び実施に関すること

- ①学内公募型異分野連繋的共同研究支援
- ②分野横断型学際研究の抽出
- ③研究論文出版費助成
- ④その他研究関連事業

3 基盤整備事業

研究科及び専攻を跨ぐ共通課題のうち、集約して基盤的な整備を実施する事業に関すること

- ①学術的広報、学術交流ネットワークの企画・実施
- ②遠隔教育支援事業の企画・実施
- ③その他基盤整備に関わる事業



お問い合わせ先：学融合推進センター

TEL：046-858-1629、1657

FAX：046-858-1632

E-mail：cpis-office@ml.soken.ac.jp

学融合教育事業

◎平成26年度総研大レクチャー

テーマ：国際コミュニケーション

担当：学融合推進センター 岩瀬峰代

期日：平成26年6月11日～6月13日

場所：総合研究大学院大学

テーマ：日本歴史研究の方法C－博物館とは何だろう－
2014年度

担当：文化科学研究科 日本歴史研究専攻 村木二郎

期日：平成26年7月23日～7月25日

場所：国立歴史民俗博物館

テーマ：日本歴史研究の方法B－地域研究の方法－
2014年度

担当：文化科学研究科 日本歴史研究専攻 柴崎茂光

期日：平成26年7月26日～7月28日

場所：鹿児島大学稲盛会館、屋久島島内

テーマ：日本歴史研究の方法A－資料調査法－
2014年度

担当：文化科学研究科 日本歴史研究専攻 大久保純一

期日：平成26年7月30日～8月1日

場所：国立歴史民俗博物館

テーマ：ワークショップデザイン講座

担当：学融合推進センター 奥本素子

期日：平成26年8月8日～8月10日

場所：総合研究大学院大学、真鶴半島

テーマ：科学コミュニケーション

担当：学融合推進センター 眞山聡

期日：平成26年8月11日～8月13日

場所：国立天文台 野辺山宇宙電波観測所

テーマ：学術映像の基礎－みる・つくる2014

担当：文化科学研究科 地域文化学専攻 久保正敏

期日：平成26年8月27日～8月30日

平成26年10月18日

場所：長野県飯綱高原、国立民族学博物館

テーマ：科学技術倫理と知的財産権

－学術研究の適切なすすめ方①基礎編

担当：文化科学研究科 メディア社会文化専攻

児玉晴男

期日：平成26年9月1日～9月3日

場所：放送大学

テーマ：研究者のための社会リテラシー

担当：先導科学研究科 生命共生体進化学専攻

平田光司、標葉隆馬

期日：平成26年9月2日～9月4日

場所：生理学研究所

テーマ：資料保存科学(モノ資料・基礎)

担当：文化科学研究科 比較文化学専攻 園田直子

期日：平成26年10月27日～10月29日

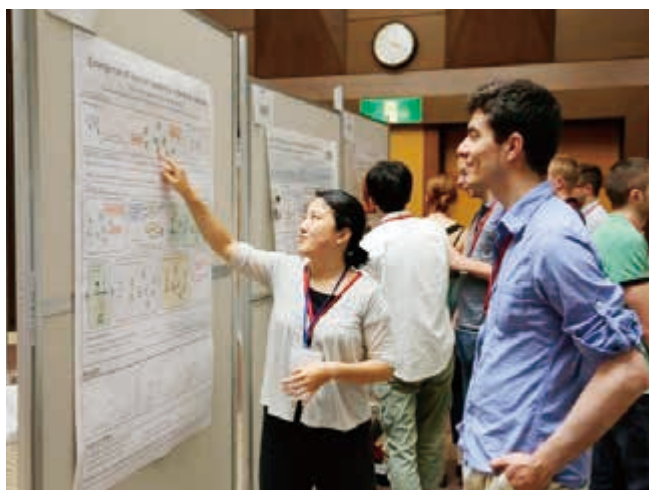
場所：国立民族学博物館

テーマ：アーカイブズ学集中講義

担当：文化科学研究科 日本文学研究専攻 渡辺浩一

実施期間：平成26年11月10日～11月15日

場所：福岡市博物館



◎平成26年度UST-総研大「計算科学」共同セミナー

計算科学は、天文科学や核融合科学、物質科学、分子科学、及び生命科学といった、様々な分野において、広く用いられています。本セミナーは、このような計算科学の現状について、学生の理解を深めることを目的としています。

担当：学融合推進センター 平田光司
期日：平成26年7月29日～8月1日
場所：韓国 デジョン UST



◎海外学生派遣事業

この事業は、本学学生が国際共同研究活動に参加するための海外派遣に対して、公募により支援を行うものです。学生が海外の大学・研究所の最先端の研究現場に飛び込んで多くの優れた研究者に触れ研究活動を行うことで、高い専門性と国際的な視野を身につけ、広く世界で活躍できる研究者に育つことを目指しています。

平成26年度
派遣学生数：5名
派遣先：イギリス、スイス、アメリカ合衆国、台湾



◎科学と社会

本学における重要な使命は、高い専門性と幅広い視野をもった研究者や専門的職業人を育成することにあります。そのような研究者や知識人の育成においては、科学研究を社会活動の一つとして捉えたうえで、専門性の違いの意味、科学研究を支える社会的基盤、研究活動の社会的意義やインパクトを考える機会が不可欠です。本プログラムではそのような問題意識から、「科学と社会」に関わる関連科目の開講、ならびにそれぞれの専門性に沿った議論の場の設計と提供を行っていきます。その一環として、特別経費「『科学知』の総合化を目指す大学院教育プログラムの推進」を中心とする本学における「科学と社会」教育の推進に協力しています。

◎総研大フレッシュマンウィーク

このプログラムは「学生セミナー」と「フレッシュマンコース」の二つのセミナーから構成されています。「学生セミナー」は在校生によるセミナー委員会が企画・運営し、普段会う機会が少ない他専攻の同期生や教員と知り合う貴重な機会を与え、一方集中型のオリエンテーションセミナー「フレッシュマンコース」は総研大の目指すところを伝え、充実した学生生活への指針を与えることを目的としています。

■平成26年度(前学期)

期 日：平成26年4月7日～4月10日

場 所：葉山キャンパス

参加者：学生85名、教員29名、講演者15名、計129名

■平成26年度(後学期)

期 日：平成26年10月7日～10月12日

場 所：葉山キャンパス

参加者：学生32名、教員20名、講演者6名、計58名



◎学術交流会

学術交流会は、総研大コミュニティメンバー、基盤専攻のさらなる連係を目指す学術交流ネットワーク(AII-SOKENDAI Academic Network, Soken-Net)強化の一助となるよう、各専攻から第一線で活躍している修了生を招へいして現在の研究について学術講演会を開催し、修了生、在学生、教員間のネットワークの構築を推進し、各々の研究および各分野の発展に寄与することを目的として開催します。

■平成26年度

期 日：平成27年3月23日～3月24日

場 所：総研大葉山キャンパス

参加者：招聘修了生6名、教員37名、新修了生13名、在学生2名、修了生4名 計62名



◎JSPSサマー・プログラム

欧米諸国の博士号取得前後の若手研究者を本学が(独)日本学術振興会と連携し、全国の大学共同利用機関や大学等との協力のもと、夏期2ヶ月間受け入れるプログラムです。

葉山キャンパスでは、来日直後の1週間でオリエンテーションプログラムにより、日本語講座、日本文化紹介、日本の文化・学術に関する特別講義、ポスタープレゼンテーションによる本学学生との交流などを行っています。

彼らが日本の教育・研究機関で一定期間研究に携わり、日本の若手研究者との研究交流を持つこと等により、各国との学術交流を図るとともに、日本の大学教育の国際化を目的として実施しています。

■JSPSサマー・プログラム開校式・オリエンテーション

期 日：6月11日～17日
場 所：湘南国際村センター

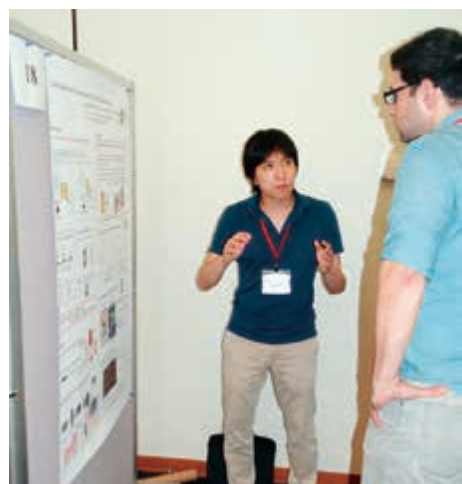
■JSPSサマー・プログラム報告会・送別会

期 日：8月19日
場 所：ホテルグランドパレス(東京)

■各研究機関での研修

期 日：6月18日～8月18日
場 所：基盤機関、大学等

平成21年度受入者		平成22年度受入者		平成23年度受入者		平成24年度受入者		平成25年度受入者		平成26年度受入者	
アメリカ	63名	アメリカ	64名	アメリカ	64名	アメリカ	64名	アメリカ	65名	アメリカ	66名
イギリス	10名	イギリス	10名	イギリス	9名	イギリス	12名	イギリス	17名	イギリス	13名
フランス	13名	フランス	13名	フランス	11名	フランス	10名	フランス	9名	フランス	13名
ドイツ	14名	ドイツ	13名	ドイツ	9名	ドイツ	14名	ドイツ	19名	ドイツ	13名
カナダ	15名	カナダ	14名	カナダ	6名	カナダ	9名	カナダ	3名	カナダ	0名
										スウェーデン	11名
計115名		計114名		計99名		計109名		計113名		計116名	



国際コミュニケーション

英語によるポスター発表のスキルを獲得させるためにJSPSサマー・プログラムと併設をして本学の学生を対象とする短期セミナーを開催しています。学生はポスターの作り方、短いプレゼンのやりかた、質問への答え方などについて専門家による指導を受け、サマープログラムで来日した欧米各国の若手研究者と共にポスターセッションに参加します。

学融合研究事業

学融合推進センターでは本学の特性を活かした共同研究プロジェクトや従来の学術分野の枠に当てはまらない創造的な研究を推進するため、様々な研究支援活動を学融合研究事業と位置付けて実施しています。現在行われている具体的な支援枠組みとしては、①学内公募型異分野連繫的共同研究支援、②分野横断型学際研究の抽出(企画会議等)、③研究論文出版費助成の3つに分けることができます。平成26年度には下記の支援が行われました。戦略的共同研究支援では、既存の専門領域の枠を超えた新しい学問分野の開拓を推進することを目的として、複数の研究科及び専攻に跨がる共同研究を全学から募り、2年から3年間、研究費の支援を行うものです。育成型共同研究支援では、次世代の学術界を担う若手研究者の育成を目的として、また出産・育児・病気・怪我などの事情により一定期間、研究活動を中断せざるを得なかった研究者への支援を目的として、独創的・萌芽的な共同研究の立案及び実施の支援を行うものです。なお、平成26年度からは、従来の戦略的共同研究支援の事業枠を発展的に再編し、新たな異分野連繫的研究プログラムである「グローバル共同研究」「学融合共同研究」を推進しています。本事業により採択された課題は、年に一度本学葉山キャンパスで開催される公開研究報告会にて研究成果の発表が行われます。



◎戦略的共同研究 I

平成26年度採択プロジェクト(8件)

- 1) 「観相資料の学際的研究」
文化科学研究科 日本文学研究専攻 相田 満 准教授 (平成24年度採択・3年目:最終年度)
- 2) 「在ハワイの日本歴史・文化資料をめぐる国際共同研究ーハワイにおける日本文化の受容」
文化科学研究科 日本歴史研究専攻 大久保 純一 教授 (平成24年度採択・3年目:最終年度)
- 3) 「手話言語学を世界へつなぐーメディア発信と e-learning 開発に向けてー」
文化科学研究科 比較文化学専攻 菊澤 律子 准教授 (平成24年度採択・3年目:最終年度)
- 4) 「惑星科学と生命科学の融合:生命概念の普遍化をめざして」
先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 長谷川 眞理子 教授 (平成24年度採択・3年目:最終年度)
- 5) 「料理」の環境文化史:生態資源の選択、収奪、消費の過程が環境に与えるインパクト」
文化科学研究科 地域文化学専攻 野林 厚志 教授 (平成25年度採択・2年目)
- 6) 「ニュー・ミュージオロジーの確立のための研究」
文化科学研究科 地域文化学専攻 竹沢 尚一郎 教授 (平成25年度採択・2年目:最終年度)
- 7) 「自然界の様々なスケールに現れる高エネルギージェット現象の解明」
高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻 板倉 数記 講師 (平成25年度採択・2年目)
- 8) 「温度感受システムの進化生理学ー無脊椎動物をターゲットとしてー」
先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 颯田 葉子 教授 (平成25年度採択・2年目)

◎育成型共同研究支援

平成 26 年度採択プロジェクト (1 件)

- 1) 「科学技術コミュニケーションの実践知理解に基づくディスカッション型教育メソッドの開発」

複合科学研究科 情報学専攻

坊農 真弓 准教授 (平成 25 年度採択・2 年目)

◎グローバル共同研究

平成 26 年度採択プロジェクト (1 件)

- 1) 「失われた生態システムの多様性解明に向けた古代 DNA 研究の展開」

複合科学研究科 統計科学専攻

足立 淳 准教授 (平成 26 年度採択・1 年目)

◎学融合共同研究

平成 26 年度採択プロジェクト (5 件)

- 1) 「新たな量子物理量の基礎の探求と精密測定への応用」

高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻 筒井 泉 准教授 (平成 26 年度採択・1 年目)

- 2) 「日本列島人の起源」

生命科学研究科 遺伝学専攻

斎藤 成也 教授 (平成 26 年度採択・1 年目)

- 3) 「細胞建築の博物学」

生命科学研究科 遺伝学専攻

木村 暁 准教授 (平成 26 年度採択・1 年目)

- 4) 「極域湖沼から探る生態系のメジャーランジション」

先導科学研究科 生命共生体進化学専攻

佐々木 顕 教授 (平成 26 年度採択・1 年目)

- 5) 「有害捕獲された野生動物の利用とその課程で起こる諸問題の検討ーカラスを例としてー」

学融合推進センター

塚原 直樹 助教 (平成 26 年度採択・1 年目)

◎公開研究報告会

公開研究報告会は、学融合研究事業の下で研究活動を実施している研究者が年に一度本学葉山キャンパスに集い、採択された研究課題について研究活動報告を行う場です。研究課題の進捗状況を把握するという目的の他に、本学の多くの研究者と知り合う機会を提供することによって、広く意見交換する場として活用していただくことを目指しています。また、次年度への継続課題に対して、参加教員の投票によるポスター賞(学融合推進センター賞)が与えられます。平成 26 年度の実績者は以下の 3 名です。

学融合推進センター最優秀賞 (2 件)

- 「手話言語学を世界へつなぐーメディア発信と e-learning 開発に向けてー」

菊澤 律子 准教授

- 「有害捕獲された野生動物の利用とその課程で起こる諸問題の検討ーカラスを例としてー」

塚原 直樹 助教

学融合推進センター賞 (1 件)

- 「細胞建築の博物学」

木村 暁 准教授

◎分野横断型学際研究の抽出

本学を代表する分野横断型の学際研究プロジェクトの立案を目指すため、各専攻より参加者を募り、総研大研究プロジェクト企画会議を実施しています。平成26年度は以下に記したように3回の企画会議を開催しました。

企画会議では、学内の様々な研究シーズについて集中的な議論を行うとともに、学際研究の芽となり得るテーマについてワークショップや共同研究へと発展させていくことを目指しています。

第6回企画会議の話題提供者（2014年9月11日 品川インターシティ貸会議室）

統計科学専攻	足立 淳	准教授	「失われた生態システムの多様性解明に向けた古代DNA研究の展開」
復旦大学	米澤 隆弘	副教授	
遺伝学専攻	木村 暁	准教授	「研究記録のあり方研究」

第7回企画会議の話題提供者（2014年11月6日、7日 国立天文台 水沢 VLBI 観測所）

天文学専攻	花田 英夫	准教授	「誤差から学ぶ— Z 項と地球回転」
国立歴史民俗博物館	葉山 茂	特任助教	「文化財レスキューと生活記憶の人文学」
遺伝学専攻	木村 暁	准教授	「研究記録のあり方研究」

第8回企画会議の話題提供者（2015年2月6日、7日 核融合科学研究所）

核融合科学専攻	中西 秀哉	准教授	「人間科学から見る科学コミュニケーション」
核融合科学専攻	武藤 貞嗣	助教	「高輝度 X 線の 2 次元エネルギー分布画像診断法の基礎研究」
日本文学研究専攻	小山 順子	准教授	「古典文学における研究記録の方法」
基礎生物学専攻	新村 毅	助教	「動物福祉のグローバル化」
統計科学専攻	島谷 健一郎	准教授	「現場主義統計学」
宇宙科学専攻	松原 英雄	教授	「赤外線の手で見る宇宙：宇宙の誕生から太陽系外惑星まで」

◎研究論文出版費補助

本学に所属する学生の研究活動の成果である研究論文の掲載について、1件につき10万円までの印刷費、出版費の経費支援を実施していました(平成27年度から上限20万円になりました)。平成26年度は11件の助成を行いました。

	専攻	著者名	タイトル	掲載誌情報
1	情報学専攻	Saran Tarnoi, Wuttipong Kumwilaisak, Poompat Saengudomlert, Yusheng Ji, C-C Jay Kuo	QoS-aware routing for heterogeneous layered unicast transmissions in wireless mesh networks with cooperative network coding	EURASIP Journal on Wireless Communications and Networking
2	生理科学専攻	大川 都史香、佐竹 伸一郎、横井 紀彦、深田 優子、深田 正紀	Identification and Characterization of GABA Receptor Autoantibodies in Autoimmune Encephalitis	The Journal of Neuroscience
3	天文科学専攻	MIN CHEULHONG, 本間 希樹、柴田 克典、廣田 朋也、松本 尚子	Accurate parallax measurement toward the symbiotic star R Aquarii	Publications of the Astronomical Society of Japan (日本天文学会欧文誌)
4	情報学専攻	町田 史門、梶山 朋子、嶋田 茂、越前 功	SNSにおけるセンシティブデータの漏洩検知に基づく公開範囲の設定方式	情報処理学会論文誌
5	極域科学専攻	松田 貴嗣、中村 卓司、江尻 省、堤 雅基	New statistical analysis of the horizontal phase velocity distribution of gravity waves observed by airglow imaging	Journal of Geophysical Research : Atmospheres
6	生命共生体進化学専攻	川嶋 彩夏、颯田 葉子	Substrate-Dependent Evolution of Cytochrome P450: Rapid Turnover of the Detoxification-Type and Conservation of the Biosynthesis-Type	PLOS ONE
7	基礎生物学専攻	WANGLAR Chimwar, 高橋 潤、矢部 泰二郎、高田 慎治	Tbx protein level critical for clock-mediated somite positioning is regulated through interaction between Tbx and Ripply	PLOS ONE
8	遺伝学専攻	岩田 亮平、岩里 琢治	RacGAP alpha2-chimaerin function in development adjusts cognitive ability in adulthood	Cell Reports
9	情報学専攻	Hoang-Quoc NGUYEN-SON, 越前 功	Anonymizing Personal Text Messages Posted in Online Social Networks and Detecting Disclosures of Personal Information	IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems
10	生理科学専攻	Erkin Kurganov, Yiming Zhou, 齋藤 茂、富永 真琴	Heat and AITC activate green anole TRPA1 in a membrane-delimited manner	European Journal of Physiology
11	基礎生物学専攻	福島 健児、川口 正代司、長谷部 光泰	Oriented cell division shapes carnivorous pitcher leaves of Sarracenia purpurea	Nature Communications

基盤整備事業

◎学術交流ネットワーク

修了生を中心とした「総研大学術交流ネットワーク」は、修了生と教職員、在学生の学術研究交流を促進して、専攻基盤機関を繋ぐ学際的かつ国際的な広がりをもった総研大コミュニティの関係をより確かなものとし、これらを通じた総研大における教育研究の一層の発展を図ることをその目的としています。また同時に、メンバーシップの維持を通じて大学の本務として、国内外での修了生の活躍状況を把握し、これらをもとに大学院教育を点検評価し、その高度化の指針を得ようとするものです。さらに、さまざまな全学事業や大学と修了生の互恵的な関係による修了生－大学・在 student 相互支援情報交換、幅広い同窓意識の醸成、人的ネットワークの形成など、本学の社会関係および国際関係の拠り所ともすることを併せ目指しています。このためのICT基盤として「SOKENDAI-Anet」ポータルサイトを運用し、学内コミュニティサイト「SOKENDAI Square」と併せて専攻、研究科、国・地域サブネットなど学問分野・地域を超えた実りある総合化や、総研大コミュニティの社会貢献発信に資する環境整備を図っています。

◎学融合交流促進事業

本学の専攻を超えた研究、教育、交流を促進するため、各活動取材し、広く学内に周知する活動を行います。平成27年度は、学融合推進センターのウェブページやYouTube、ニュースレター等の多様なメディアを活用し、学内で行われる様々な事業の報告を通し、学内ネットワークの形成に努めます。

ウェブページでは以下の情報を発信しております。

センター関連事業の活動報告

学融合レクチャーや総研大研究プロジェクト企画会議、学生企画事業、その他センター関連事業について、写真とともに活動報告を行います。

動画コンテンツを用いた学内向け広報事業

学内に向けたセンター事業の周知を目的として、視覚的に理解しやすく、インパクトが大きい動画を用いた広報活動。YouTubeの学融合推進センター公式チャンネルを利用し、総研大研究プロジェクト企画会議や学生企画事業、学融合レクチャー等の学内向けの広報動画を配信しております。

研究者交流掲示板

異分野連携の促進を目的として、異分野連携研究のアイデアを持つ研究者が、特定の技術や知識を持つ異分野の研究者を探すための場として利用していただけるウェブページです。

顔の見える学位授与式

学内の学生間ネットワーク、世代間ネットワークの形成促進を目的として、学位授与式の際に、新規学位取得者の将来の夢や在 student へのメッセージを撮影し、ウェブページに掲載する企画です。

学融合のひと・こと(ブログ)

分野を超えた学生・教員の学術交流を推進することを目的として、学融合レクチャーや学生企画、萌芽的研究会などのセンター関連事業の周知や報告を行います。

◎遠隔教育支援事業

学融合推進センターでは、遠隔教育のためのデジタルコンテンツの教育発信を支援しています。平成26年度は、同期型遠隔授業プラットフォーム、TELASの利用場面等を調査、検討しました。

平成27年度は、TELASなどを活用した遠隔教育レクチャーの配信に協力するなど、各基盤機関を跨いだ教育の支援に努めます。

社会へ向けた取組

○ 大学評価

本学の教育研究活動について、自己点検・評価を行い、さらに自己点検・評価結果について、第三者評価を受けることにより問題点や改善点を洗い出し、よりよい教育研究に資することを目的に大学評価を行っています。

- 「先導科学研究科の外部評価」(平成 16 年 11 月、平成 25 年 1 月)
- 「大学本部全学事業推進室の外部評価」(平成 19 年 3 月)
- 「大学機関別認証評価」(平成 20 年 3 月、平成 26 年 3 月)
大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価を受け、「大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」旨の評価結果を得ました。
- 「国立大学法人評価(各年度評価及び中期目標期間評価)」(平成 21 年 3 月、平成 25 年 11 月)

お問い合わせ先：総務課企画係

TEL：046-858-1584 FAX：046-858-1542 E-mail：irdiv@ml.soken.ac.jp

○ 地域社会交流プログラム

本学に蓄積された研究成果等を広く一般社会に公表し、大学の公開及び地域社会との交流を深めることを目的として、葉山キャンパスがある湘南国際村で開催される「湘南国際村フェスティバル」に参加しています。また、(財)かながわ国際交流財団と共催でサイエンスカフェを開催しています。さらに葉山町内でもサイエンスカフェを開催しています。

■平成 26 年度

◇「湘南国際村フェスティバル 2014」

- －講演会「アフリカ古代湖の魚が見ている世界、現地調査と最新研究」
寺井洋平(生命共生体進化学専攻 助教)
- －サイエンスカフェ「科学を伝える」
- －観望会「春の夜空を楽しもう」
期 日：平成 26 年 5 月 3 日

◇サイエンスカフェ

- －「酵母から見てきたオートファジーの世界」
大隅良典(総合研究大学院大学 名誉教授)
期 日：平成 26 年 7 月 5 日

◇中高生のための科学セミナー

- －「日本の宇宙科学のいまとこれから」
坂本成一(宇宙科学専攻 教授)
期 日：平成 26 年 7 月 29 日

◇サイエンスカフェ

- －「進化がヒトに残したもの ～人間行動進化学への招待～」
大槻久(生命共生体進化学専攻 助教)
期 日：平成 27 年 2 月 1 日

お問い合わせ先：総務課、広報社会連携室

TEL：046-858-1500, 1590 FAX：046-858-1542, 1632

○ 先導科学研究科 学術講演会

先導科学研究科の先端的な研究活動の成果のなかから、「生命・進化」に関連したテーマを取り上げた学術講演会を毎年開催し、研究の最前線を一般の人々に伝え、また、地域社会との交流を深めることを目的として実施しています。

■平成 26 年度(第 17 回)

演 目：「ツバメの恋情を解き明かす多彩な好みと形質進化」
長谷川 克(総合研究大学院大学 特別研究員)

演 目：「首都圏を襲うインフルエンザ どの駅、どの路線が危ないの？」
八島 健太(総合研究大学院大学 特別研究員)

期 日：平成 26 年 11 月 3 日

お問い合わせ先：総務課 先導科学研究科事務係

TEL：046-858-1577, 1595 FAX：046-858-1544

E-mail：office_sendou@ml.soken.ac.jp



教職員数

平成27年4月1日現在

区分	役員	教授	准教授	講師	助教	その他	事務職員	計	
学長	1							1	
理事	3							3	
監事	2							2	
副学長	(1)							(1)	
学長補佐		(3)						(3)	
文化科学研究科	地域文化学専攻		13	10				23	
	比較文化学専攻		12	10				22	
	国際日本研究専攻		17	5				22	
	日本歴史研究専攻		18	15				33	
	メディア社会文化専攻		10	3				13	
	日本文学研究専攻		15	9				24	
計		85	52					137	
物理学研究科	構造分子科学専攻		7	8		17		32	
	機能分子科学専攻		9	7		18		34	
	天文学専攻		24	30	(1)	40		94(1)	
	核融合科学専攻		27	21		14		62	
	宇宙科学専攻		15	40		28		83	
	計		82	106	(1)	117		305(1)	
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学専攻		58	55	17	54		184	
	物質構造科学専攻		20	19	7	10		56	
	素粒子原子核専攻		31	32	24	20		107	
	計		109	106	48	84		347	
複合科学研究科	統計科学専攻		19	21		7		47	
	極域科学専攻		12	20		20		52	
	情報学専攻		30	29		9		68	
	計		61	70		36		167	
生命科学研究科	遺伝学専攻		22	15		30		67	
	基礎生物学専攻		11	15		36		62	
	生理科学専攻		16	19		33		68	
	計		49	49		99		197	
先端科学研究科	生命共生体進化化学専攻		5	5	4	8	13	35	
	計		5	5	4	8	13	35	
学融合推進センター		1(1)	(2)	(2)	3			4(5)	
情報基盤センター			(1)		1			1(1)	
事務局等				1			39	40	
合計		6(1)	392(4)	388(3)	53(4)	348	13	39	1239(12)

※()については、他部署と兼務。(外数)

在学生数

平成27年5月1日現在

研究科	専攻	入学定員		1年次		2年次		3年次(1年次)		4年次(2年次)		5年次(3年次)		計							
		5年一貫制 博士課程	博士後期課程 (3年次編入学)	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生						
文化科学研究科	地域文化学専攻	3						2	1	1	3	1	1	7	2	4	12	4	6		
	比較文化学専攻	3						4	4	1	5	2	2	7	5	1	16	11	4		
	国際日本研究専攻	3						4	4	0	4	2	1	10	5	4	18	11	5		
	日本歴史研究専攻	3						2	1	0	2	1	1	5	2	0	9	4	1		
	メディア社会文化専攻							0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	2	0		
	日本文学研究専攻	3						1	1	0	1	1	0	6	6	1	8	8	1		
計	15						13	11	2	15	7	5	37	22	10	65	40	17			
物理学研究科	構造分子科学専攻	2	3	3	1	0	4	0	0	10	5	5	5	0	1	4	0	3	26	6	9
	機能分子科学専攻	2	3	3	0	0	1	0	0	1	0	0	5	4	4	1	1	1	11	5	5
	天文学専攻	2	3	5	1	0	2	1	0	9	2	2	8	2	0	8	3	4	32	9	6
	核融合科学専攻	2	3	1	0	0	3	0	0	4	0	3	6	1	3	3	1	3	17	2	9
	宇宙科学専攻	2	3	2	0	0	6	1	2	3	1	0	7	0	0	7	2	1	25	4	3
	計	10	15	14	2	0	16	2	2	27	8	10	31	7	8	23	7	12	111	26	32
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学専攻	2	※ ²	1	0	0	0	0	2	1	2	3	0	0	1	0	1	7	1	3	
	物質構造科学専攻	3	※ ²	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	2	0	4	3	0	
	素粒子原子核専攻	4	※ ²	10	1	0	5	2	1	7	0	1	8	0	1	9	0	1	39	3	4
	計	9	—	11	1	0	5	2	1	9	1	3	13	1	1	12	2	2	50	7	7
複合科学研究科	統計科学専攻	2	3	1	0	0	1	0	0	5	2	0	9	2	1	12	1	1	28	5	2
	極域科学専攻	2	1	5	1	0	1	0	0	4	3	0	6	2	0	6	2	0	22	8	0
	情報学専攻	4	6	7	0	4	4	1	4	14	2	10	18	1	9	36	3	18	79	7	45
	計	8	10	13	1	4	6	1	4	23	7	10	33	5	10	54	6	19	129	20	47
生命科学研究科	遺伝学専攻	3	6	5	1	1	5	3	2	12	4	4	8	1	2	11	5	5	41	14	14
	基礎生物学専攻	3	6	2	1	0	8	4	0	12	6	3	4	1	0	16	10	2	42	22	5
	生理科学専攻	3	6	4	2	3	1	0	0	7	2	0	11	5	4	18	7	3	41	16	10
	計	9	18	11	4	4	14	7	2	31	12	7	23	7	6	45	22	10	124	52	29
先端科学研究科	生命共生体進化化学専攻	5	1	3	0	0	3	2	2	8	6	0	1	0	0	16	9	0	31	17	2
	計	5	1	3	0	0	3	2	2	8	6	0	1	0	0	16	9	0	31	17	2
合計	41	59	52	8	8	44	14	11	111	45	32	116	27	30	187	68	53	510	162	134	

※1. 女子・外国人留学生は共に内数

※2. 高エネルギー加速器科学研究科は、3年次編入学については入学定員の設定はないが、入試は実施。

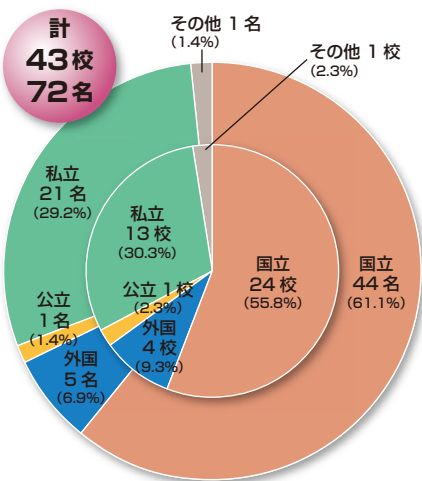
入学者状況

平成27年度(4月入学)入学者選抜実施状況(5年一貫制博士課程及び博士後期課程(博士課程3年次編入学)) 平成27年4月1日現在

研究科	専攻	入学定員	入学選抜実施状況		入学者	入学者の内訳			
			志願者	合格者		性別		外国人	有職者
						男	女		
文化科学研究科	地域文化化学専攻	- (3)	(8)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	
	比較文化化学専攻	- (3)	(7)	(4)	(4)		(4)	(1)	
	国際日本研究専攻	- (3)	(9)	(4)	(4)		(4)		
	日本歴史研究専攻	- (3)	(4)	(2)	(2)	(1)	(1)		(1)
	日本文学研究専攻	- (3)	(4)	(2)	(1)		(1)		
	計	- (15)	(32)	(14)	(13)	(2)	(11)	(2)	(1)
物理科学研究科	構造分子科学専攻	2 (3)	5 (4)	3 (3)	3 (2)	2 (2)	1	(1)	
	機能分子科学専攻	2 (3)	5 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)			
	天文科学専攻	2 (3)	23 (9)	8 (2)	5 (2)	4 (1)	1 (1)		
	核融合科学専攻	2 (3)	3	2	1	1			
	宇宙科学専攻	2 (3)	7 (1)	5 (1)	2 (1)	2	(1)		
	計	10 (15)	43 (15)	21 (7)	14 (6)	12 (4)	2 (2)	(1)	
高エネルギー 加速器科学研究科	加速器科学専攻	2 (若干名)	7	4	1	1			
	物質構造科学専攻	3 (若干名)	1	1					
	素粒子原子核専攻	4 (若干名)	36 (2)	18 (2)	10 (2)	9 (2)	1		
	計	9	44 (2)	23 (2)	11 (2)	10 (2)	1		
複合科学研究科	統計科学専攻	2 (3)	7 (3)	2 (1)	(1)		(1)		(1)
	極域科学専攻	2 (1)	10 (2)	5 (1)	5 (1)	4 (1)	1		1
	情報学専攻	4 (6)	6 (8)	4 (3)	2 (2)	2 (2)		(1)	
	計	8 (10)	23 (13)	11 (5)	7 (4)	6 (3)	1 (1)	(1)	1 (1)
生命科学研究科	遺伝学専攻	3 (6)	10 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (2)	(1)		
	基礎生物学専攻	3 (6)	7	4	2	1	1		
	生理科学専攻	3 (6)	4 (3)	2 (3)	1 (3)	1 (3)			
	計	9 (18)	21 (7)	9 (6)	6 (6)	5 (5)	1 (1)		
先端科学研究科	生命共生体進化学専攻	5 (1)	5 (1)	4	3	3			
	計	5 (1)	5 (1)	4	3	3			
合計		41 (59)	136 (70)	68 (34)	41 (31)	36 (16)	5 (15)	(4)	1 (2)

() は博士後期課程または博士課程3年次編入学で外数。

平成27年度入学者状況 (出身大学等)



国立大学 44名			
北海道大学	2	信州大学	2
東北大学	3	富山大学	1
山形大学	1	岐阜大学	1
茨城大学	2	静岡大学	1
筑波大学	5	名古屋大学	1
筑波技術大学	1	三重大学	1
埼玉大学	1	京都大学	3
千葉大学	1	神戸大学	2
東京大学	6	奈良女子大	1
東京学芸大学	2	山口大学	1
東京工業大学	1	九州大学	3
お茶の水女子大学	1	鹿児島大学	1

公立大学 1名	
大阪府立大学	1

私立大学 21名			
学習院大学	1	同志社大学	2
北里大学	1	東邦大学	1
京都文教大学	1	明治大学	2
創価大学	1	立教大学	1
中央大学	1	立命館大学	1
東海大学	1	早稲田大学	2
東京理科大学	6		

外国の大学 5名	
ハノイ工科大学 (ベトナム)	1
上海交通大学 (中国)	1
中山大学 (中国)	2
University College London (イギリス)	1

その他 1名	
奈良工業高等専門学校	1

博士の学位授与状況（研究科別）

（平成 27 年 4 月 1 日現在）

研究科	入学定員	専攻分野	3年度から21年度計	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	計
文化科学研究科	(15)	文学	65 [11] (33)	14 [6] (2)	7 [2] (1)	7 [2] (4)	3 (1)	5 [4] (2)	101 [25] (43)
		学術	51 [7] (18)	1 [1] (2)	3 (1)	3 [1] (4)	4 [1] (4)	6 [2] (2)	68 [12] (31)
物理学研究科	10(15)	学術	52 [0] (11)	1	2	3	0	0	58 [0] (11)
		理学	298 [11] (32)	12	13	13 [2]	19	11 (3)	366 [13] (35)
		工学	43 [1] (15)	5	7	6	7 [1]	4 [2] (1)	72 [4] (16)
高エネルギー加速器科学研究科	9(※)	学術	22 [0] (8)	0	0	1 [1]	0 (1)	0	23 [1] (9)
		理学	109 [3] (11)	6 (1)	12	12 (1)	5	8	152 [3] (13)
		工学	38 [0] (19)	1 (1)	1 (1)	3	1	3	47 [0] (21)
複合科学研究科	8(10)	統計科学	15 [1] (1)	4 (1)	2	1 (1)	1	4 [1]	27 [2] (3)
		学術	64 [4] (10)	2	3	4	5	2	80 [4] (10)
		理学	44 [0] (6)	2	2	2	2	2	54 [0] (6)
		情報学	56 [2] (0)	8 [1]	12 [1]	10 [1]	9 [1]	10 [1]	105 [7] (0)
生命科学研究科	9(18)	学術	34 [1] (2)	0	0	0	1	0	35 [1] (2)
		理学	409 [19] (33)	23 [3] (1)	18 (1)	21 [1]	18 [2] (1)	23 [2] (1)	512 [27] (37)
		医学	8 [0] (0)	0	0	0	1	0	9 [0] (0)
先端科学研究科	5(1)	学術	13 [4] (0)	1 [1]	1	0 (1)	0	0	15 [5] (1)
		理学	38 [5] (2)	1 [1]	3	3 [1]	2	1	48 [7] (2)
		工学	5 [1] (0)	0	0	0	0	0	5 [1] (0)
合計	41(59)		1364 [70] (201)	81 [13] (8)	86 [3] (4)	89 [9] (11)	78 [5] (7)	79 [12] (9)	1777 [112] (240)

・入学定員は平成 26 年度の数字（括弧の数字は博士後期課程または博士課程 3 年次編入学生の定員。高エネルギー加速器科学研究科の※は定員設定はないが若干名受入。）

・（ ）は論文博士で外数。

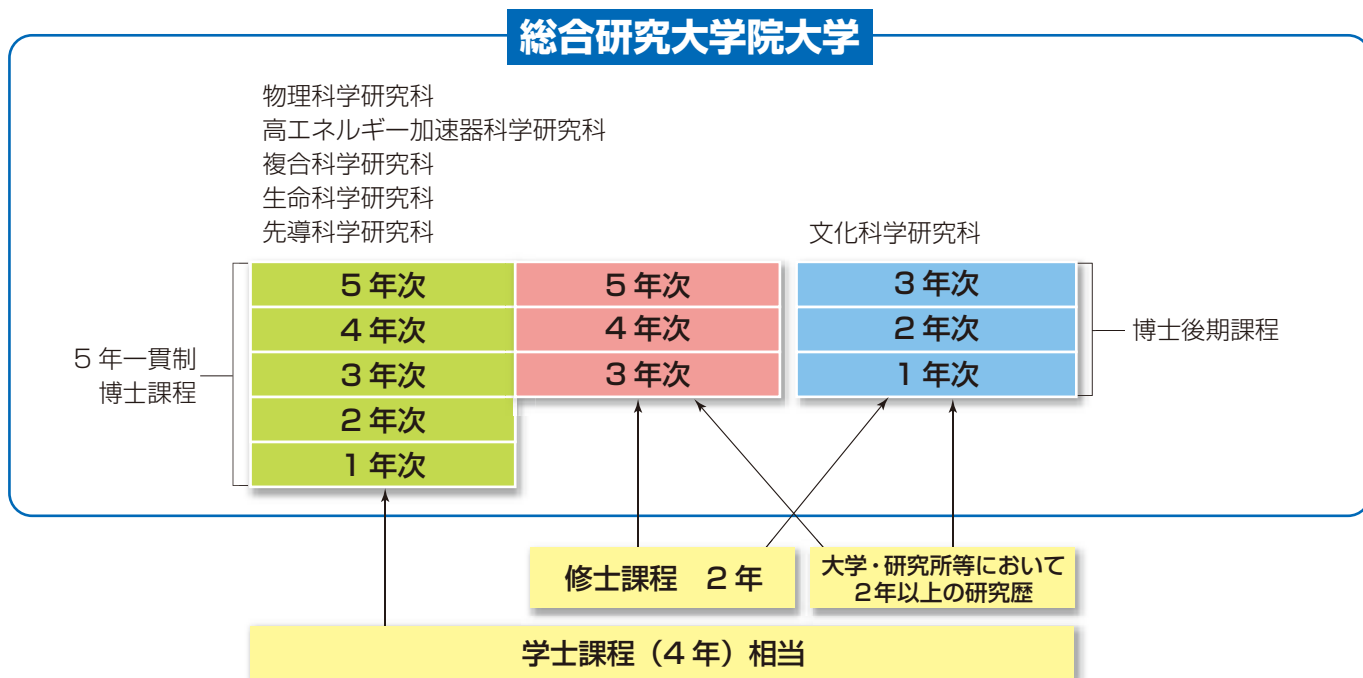
・[] は単位取得退学後、所定の期間内に出席し学位を取得した者で、内数。

・物理学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科は平成 16 年 3 月 31 日まで数物科学研究科。

修了の要件

本学に 3 年(5 年一貫制博士課程は 5 年)以上在学し、各専攻で定める所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することが修了の要件です。

なお、優れた研究業績を上げた者は在学期間を短縮して修了することができます。



修了生進路状況

進路状況（過去 10 年間）

平成 27 年 4 月 10 日現在

進路(人数)	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
大学・研究所等	61	76	61	52	68	55	65	52	53	45
企業	7	10	10	9	12	12	8	14	9	15
その他(研究生・未定等)	26	16	28	23	19	14	12	23	16	19
合計	94	102	99	84	99	81	85	89	78	79

平成 26 年度 修了生進路状況

大学・研究所等

- 国立民族学博物館 外来研究員 1
- 国立天文台 プロジェクト 1
研究員
- 核融合科学研究所 学振特別研究員 1
- 宇宙科学研究所 学振特別研究員 2
- 高エネルギー加速器科学研究機構 研究員 2
- 国立極地研究所 特任研究員 1
- 国立情報学研究所 学振特別研究員 3
ポストク 1
- 国立遺伝学研究所 特任研究員 2
プロジェクト 1
- 基礎生物学研究所 NIBB リサーチフェロー 2
研究職 1
- 生理学研究所 学振特別研究員 1
研究員 1
研究職 1
ポストク 1
- (独) 理化学研究所 仁科センター 1
仁科加速器研究センター 技師
- (独) 産業技術総合研究所 触媒科学融合研究センター 特別研究員 1
- (独) 国立文化財機構奈良文化財研究所 主任研究員 1
- 北海道大学 大学院理学院 特任助教 1
- 東北大学 学振特別研究員 1
- 奈良県立大学 講師 1
- 秋田大学 助教 1
- 筑波大学 助教 1
- 東京大学 宇宙線研究所 特任研究員 1
- 東京工業大学 学振特別研究員 1

合計 79人

大学・研究所等 57%

その他 24%

企業等 19%

企業等

- (株) 豊島総合研究所 代表取締役 1
- (株) 富士通研究所 インテリジェントシステム研究部 1
- Works Applications テクノロジスペシャリスト 2
- Brain Child 専門職・技術職 1
- (株) 創育 1
- (株) アドバンステクノロジー 1
- 三菱電機株式会社 専門職・技術職 1
- 日本電気株式会社 研究職 1
- 第一三共株式会社 1
- 田辺三菱製薬株式会社 創薬第 2 研究所 研究職 1
- セコム株式会社 研究職 1
- WDB 株式会社 1
- 大鵬薬品工業株式会社 第二研究所 研究員 1
- フナコシ株式会社 1

計 15 名

その他

- 学校法人 自由学園 教諭 1
- 静岡県立静岡がんセンター 主事・生物統計家 1
- あいの里動物病院 獣医師 1
- 大阪大学医学部附属病院 薬剤師 1
- 未定等 15

計 19 名

国際交流

平成27年度外国人留学生(専攻別)一覧

平成27年5月1日現在

研究科	専攻	入学定員		1年次		2年次		3年次(1年次)		4年次(2年次)		5年次(3年次)		計		研究生								
		5年一貫制 博士課程 博士課程 (3年次編入学)	3年次編入学	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費							
文化科学研究科	地域文化学専攻	3						1	1		1		4	2	6	3	0	1	1	1				
	比較文化学専攻	3						1	1	1	2	1	1	1	4	3	1	1	1	1				
	国際日本研究専攻	3									1		1	4	5	3	1	4	3					
	日本歴史研究専攻	3									1				1	0	0							
	メディア社会文化専攻	0													0	0	0							
	日本文学研究専攻	3												1	1	1	0	1	1	1				
	計	0	15	0	0	0	0	2	2	1	5	1	1	10	7	0	17	10	2	7	6	3		
物理学研究科	構造分子科学専攻	2	3						5	3		1		3		9	3	0						
	機能分子科学専攻	2	3								4	3	1	1	1	5	4	1						
	天文科学専攻	2	3					2					4		1	6	0	1	2		1			
	核融合科学専攻	2	3					3		3	3	1	3	1	1	9	2	4						
	宇宙科学専攻	2	3			2	2						1		1	3	0	3						
		計	10	15	0	0	2	0	2	10	3	3	8	4	1	12	2	3	32	9	9	2	1	
高エネルギー 加速器科学研究科	加速器科学専攻	2	若干名						2	1				1		3	1	0						
	物質構造科学専攻	3	若干名												0	0	0							
	素粒子原子核専攻	4	若干名			1	1		1		1	1	1		4	1	1							
		計	9	-	0	0	0	1	1	0	3	1	0	1	2	0	0	7	2	1				
複合科学研究科	統計科学専攻	2	3								1	1	1	1		2	1	1						
	極域科学専攻	2	1												0	0	0							
	情報学専攻	4	6	4	3	4	1	2	10	1	3	9	1	3	18	1	4	45	4	15	2	1		
		計	8	10	4	0	3	4	1	2	10	1	3	10	2	4	19	1	4	47	5	16	2	1
生命科学 研究科	遺伝学専攻	3	6	1	1	2	1		4	2	1	2	1	2	5	2	3	14	6	7	1	1	1	
	基礎生物学専攻	3	6						3	1	3				2	1	5	2	4					
	生理科学専攻	3	6	3	2	3						4	3	1	3	2	2	10	7	6				
		計	9	18	4	2	4	2	1	0	7	3	4	6	4	3	10	5	6	29	15	17	1	1
先端科学 研究科	生命共生体進化化学専攻	5	1			2	2	1								2	2	1						
		計	5	1	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	2	2	1					
	合計	41	59	8	2	7	11	5	5	32	10	11	30	11	10	53	15	13	134	43	46	12	7	6

各年次について、4月入学者とその前年度の10月入学者の合計数。女子及び留学生はともに内数。

平成27年度外国人留学生(国別)一覧

平成27年5月1日現在

国名	1年次		2年次		3年次(1年次)		4年次(2年次)		5年次(3年次)		計		研究生								
	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費							
アジア	7	2	6	9	5	3	28	9	9	26	11	8	43	14	8	113	41	34	12	7	6
インド	1		1				3	1		4	3	2	2	1	1	10	5	4			
インドネシア	1	1	1	2	1	2	2	1		1		1	1	1	1	7	4	5			
シンガポール										1	1	1				1	1	1			
スリランカ												1	1	1	1	1	1	1			
タイ	2	1	2	1		1	5	1	3	2	1	1	5			15	3	7			
バングラデシュ										1		1	1			2	0	1			
フィリピン				1												1	0	0	1	1	1
ベトナム	1		1	2	2		3	1	1			4		1	11	3	3	1			1
マレーシア												2		1	2	0	1				
大韓民国						1				1		4	2	1	6	2	1				
中華人民共和国	2		1	1	1		14	5	5	12	4	2	21	8	2	50	18	10	10	6	4
台湾				2	1					3	2		2	1		7	4	0			
アフリカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	2	4	0	3			
アルジェリア												1		1	1	0	1				
スーダン										1		1				1	0	1			
チュニジア										1						1	0	0			
ナイジェリア													1		1	1	0	1			
太平洋州	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1			
オーストラリア												1				1	0	0			
ニュージーランド				1		1										1	0	1			
欧州	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	4	0	1	7	0	2			
スペイン										1		1				1	0	1			
フランス						1							3			4	0	0			
ウズベキスタン										1						1	0	0			
ラトビア													1		1	1	0	1			
中東	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0	2			
イラン													1			2	0	1			
トルコ				1		1										1	0	1			
中南米	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2	1	2	3	2	3			
エクアドル							1	1	1							1	1	1			
ブラジル													1		1	1	0	1			
ペルー													1	1	1	1	1	1			
北米	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1			
アメリカ	1		1				1									2	0	1			
総計	8	2	7	11	5	5	32	10	11	30	11	10	53	15	13	134	43	46			

年次の()が後期3年博士課程の研究科に対応。
女子及び国費留学生はともに内数。

大学間交流協定

本学では、大学間の学術交流を通じて、大学院における教育・研究活動のより一層の充実をはかるため、国内外の大学と学術交流協定を締結しています。

海外の大学等との交流協定

協定機関 [国名] 対応部局	本学対応部局	協定内容	協定締結年月日	協定有効期限
科学技術聯合大学院大学校 [大韓民国]	全研究科	研究者交流 学生交流	平成 17 年 5 月 25 日 平成 22 年 5 月 25 日	平成 27 年 5 月 24 日
バイロイト大学 [ドイツ]	全研究科	研究者交流 学生交流	平成 21 年 10 月 9 日 平成 24 年 10 月 9 日	平成 29 年 10 月 8 日
チュロンコンーン大学 [タイ] 理学部	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 22 年 4 月 1 日	平成 32 年 3 月 23 日
第四軍医大学 [中国] 基礎医学研究科	生命科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 22 年 12 月 16 日	平成 27 年 12 月 15 日
カセサート大学 [タイ] 理学部	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 23 年 3 月 29 日	平成 28 年 3 月 28 日
Indian Institute of Science Education and Research Pune [インド]	生命科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 23 年 4 月 18 日	平成 28 年 4 月 17 日
アジア工科大学院 [タイ]	全研究科※	研究者交流 学生交流	平成 24 年 1 月 19 日	平成 29 年 1 月 18 日
国立台湾大学 [台湾] 生物資源暨農學院	先導科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 24 年 5 月 7 日	平成 29 年 5 月 6 日
マヒドン大学 [タイ] 理学部	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 26 年 3 月 20 日	平成 31 年 3 月 19 日
南洋理工大學 [シンガポール] 理学部	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 26 年 3 月 20 日	平成 31 年 3 月 19 日
マラヤ大学 [マレーシア] 理学部	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成 26 年 3 月 24 日	平成 31 年 3 月 23 日

※複合科学研究科情報学専攻とアジア工科大学院 School of Engineering and Technology 間でデュアルディグリープログラムに関する覚書を締結

国内の大学等との交流協定

協定機関	本学対応部局	協定内容	協定締結年月日
東京工業大学 大学院 理工学研究科・生命理工学研究科・ 総合理工学研究科・情報理工学研究科・ 社会理工学研究科	全研究科	学生交流	平成 7 年 4 月 3 日
お茶の水女子大学	全研究科	学生交流	平成 7 年 4 月 3 日
名古屋大学 大学院医学系研究科	生命科学研究科 (生理科学専攻)	学生交流	平成 7 年 4 月 3 日
名古屋大学 大学院工学研究科	物理科学研究科	学生交流	平成 22 年 4 月 1 日
東京大学 大学院理学系研究科	物理科学研究科 高工エネルギー加速器科学研究科 複合科学研究科	学生交流	平成 10 年 3 月 27 日
東京大学 大学院情報理工学系研究科	物理科学研究科 高工エネルギー加速器科学研究科 複合科学研究科・生命科学研究科 先導科学研究科	学生交流	平成 10 年 3 月 27 日
国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科	全研究科	学生交流	平成 12 年 3 月 24 日
京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成 17 年 4 月 1 日
大阪大学大学院 人間科学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成 17 年 4 月 1 日
神戸大学大学院 国際文化学研究科 人間発達環境学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成 17 年 4 月 1 日
京都文教大学大学院 文化人類学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成 17 年 4 月 1 日
千葉大学大学院 人文社会科学研究科	文化科学研究科 (日本歴史研究専攻・日本文学研究専攻)	学生交流	平成 17 年 4 月 1 日
千葉大学大学院 理学研究科	物理科学研究科	学生交流	平成 22 年 4 月 1 日
北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科	複合科学研究科 (情報学専攻)	学生交流	平成 21 年 4 月 1 日
津田塾大学 理学研究科	複合科学研究科	学生交流	平成 27 年 4 月 1 日
早稲田大学 基幹理工学研究科	複合科学研究科	学生交流	平成 27 年 4 月 1 日

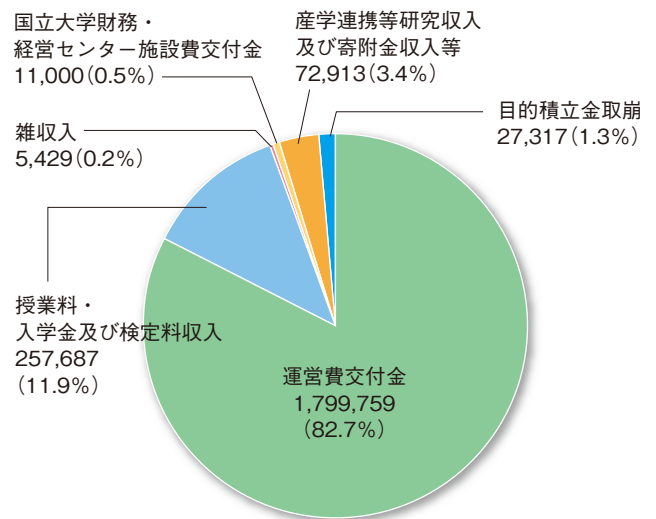
神奈川県内の大学等との交流協定 (研究者交流、学生交流)

協定機関	本学対応部局	協定締結年月日
麻布大学	獣医学研究科	平成 13 年 1 月 10 日
	環境保健学研究所	
神奈川大学	法学研究科	
	経済学研究科	
	経営学研究科	
	外国語学研究科	
	理学研究科	
	工学研究科	
	歴史民俗資料科学研究科	
神奈川工科大学	人間科学研究科	
関東学院大学	工学研究科	
	文学研究科	
	経済学研究科	
北里大学	法学研究科	
	工学研究科	
	理学研究科	
	医療系研究科	
	看護学研究科	
	薬学研究科	
	獣医学系研究科	
海洋生命科学研究所		
感染制御科学府		
湘南工科大学	工学研究科	
専修大学	経済学研究科	
	法学研究科	
	文学研究科	
	経営学研究科	
	商学研究科	
鶴見大学	文学研究科	
桐蔭横浜大学	法学研究科	
	工学研究科	
東海大学	文学研究科	
	政治学研究科	
	経済学研究科	
	法学研究科	
	芸術学研究科	
	体育学研究科	
	理学研究科	
	工学研究科	
	海洋学研究科	
	健康科学研究科	
人間環境学研究科		
東京工芸大学	工学研究科	
日本大学	生物資源科学研究科	
	獣医学研究科	
日本女子大学	人間社会研究科	
	文学研究科	
	理学研究科	
	家政学研究科	
横浜市立大学	人間生活学研究科	
	医学研究科	
	都市社会文化研究科	
	生命ナノシステム科学研究科	
	生命医科学研究科	
横浜国立大学	工学府	
	環境情報学府	
	教育学研究科	
	国際社会学府	
	都市イノベーション学府	
東京工業大学	生命理工学研究科	
	総合理工学研究科	
明治大学	農学研究科	
フェリス 女学院大学	人文科学研究科	
	国際交流研究科	
情報セキュリティ 大学院大学	音楽研究科	
	情報セキュリティ研究科	
東京都市大学	環境情報学研究科	
相模女子大学	栄養科学研究科	
松蔭大学	経営管理研究科	
青山学院大学	理工学研究科	
文教大学	情報学研究科	
	国際学研究科	
神奈川歯科大学	歯学研究科	
鎌倉女子大学	児童学研究科	
聖マリアンナ 医学大学	医学研究科	
	全研究科	平成 14 年 3 月 20 日
		平成 16 年 4 月 1 日
		平成 17 年 4 月 1 日
		平成 19 年 4 月 1 日
		平成 21 年 4 月 1 日
		平成 21 年 4 月 1 日
		平成 22 年 4 月 1 日
		平成 25 年 4 月 1 日
		平成 26 年 4 月 1 日
		平成 27 年 4 月 1 日

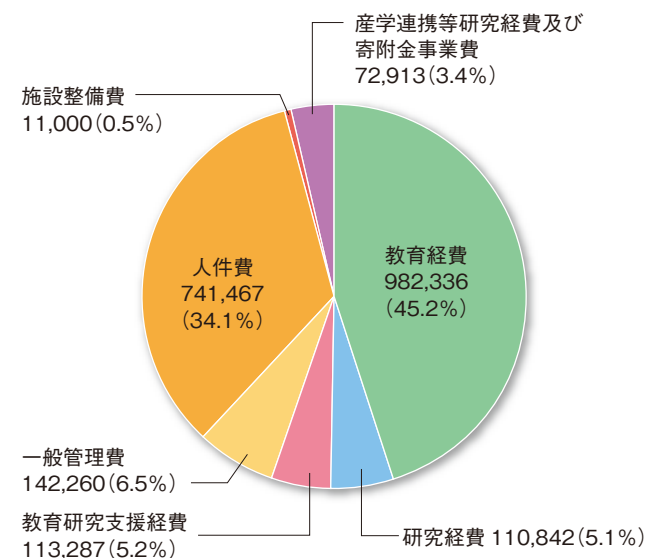
平成27年度収入・支出予算

(単位：千円)

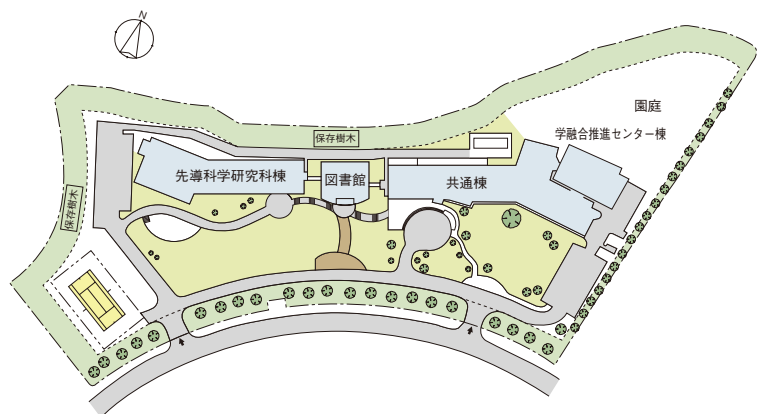
収入予算総額 2,174,105



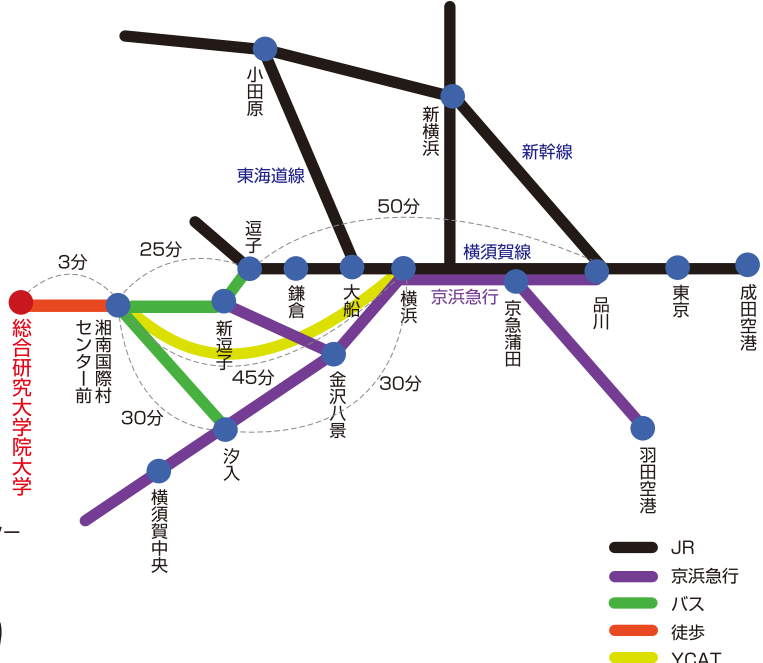
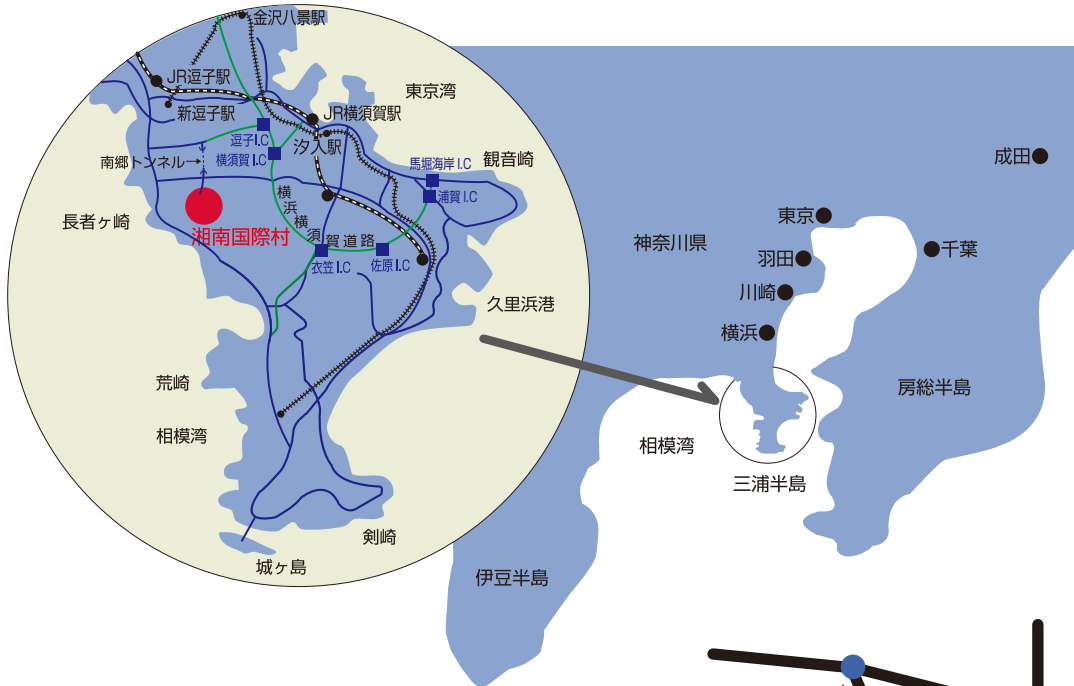
支出予算総額 2,174,105



葉山キャンパス施設配置図



葉山キャンパスアクセスマップ



- 電車・バス利用
 - ▶ JR 横須賀線逗子駅東口下車
 - ▶ 京急バス①番乗り場より16系統・26系統「湘南国際村」行き、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約25分 運賃：350円
 - ▶ 京急バス②番乗り場より「湘南佐島なぎさの丘」行き、「湘南国際村間門沢調整池」下車
乗車時間：約20分 運賃：330円
 - ▶ 京浜急行逗子線新逗子駅南口下車
 - ▶ 京急バス①番乗り場より16系統・26系統「湘南国際村」行き、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約23分 運賃：350円
 - ▶ 京急バス②番乗り場より「湘南佐島なぎさの丘」行き、「湘南国際村間門沢調整池」下車
乗車時間：約18分 運賃：330円
 - ▶ 京浜急行本線汐入駅下車
 - ▶ 京急バス②番乗り場より16系統「湘南国際村」行き、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約30分 運賃：380円
 - ▶ YCAT
 - ▶ 横浜シー・エターナル⑥番乗り場 横須賀西部行き（電力中央研究所行きバス）、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約45分 運賃：920円
- ② 「湘南国際村センター前」下車徒歩3分、「湘南国際村間門沢調整池」下車徒歩10分

- 車利用
 - ▶ 横浜横須賀道路（有料）「逗子インター」より
逗葉新道（有料）出口より交差点左折
南郷トンネルを抜け直進約5分
「湘南国際村センター入口」交差点を左折約1分



国立大学法人

総合研究大学院大学

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

Tel.046-858-1500〔代表〕/Fax.046-858-1542

<http://www.soken.ac.jp/>